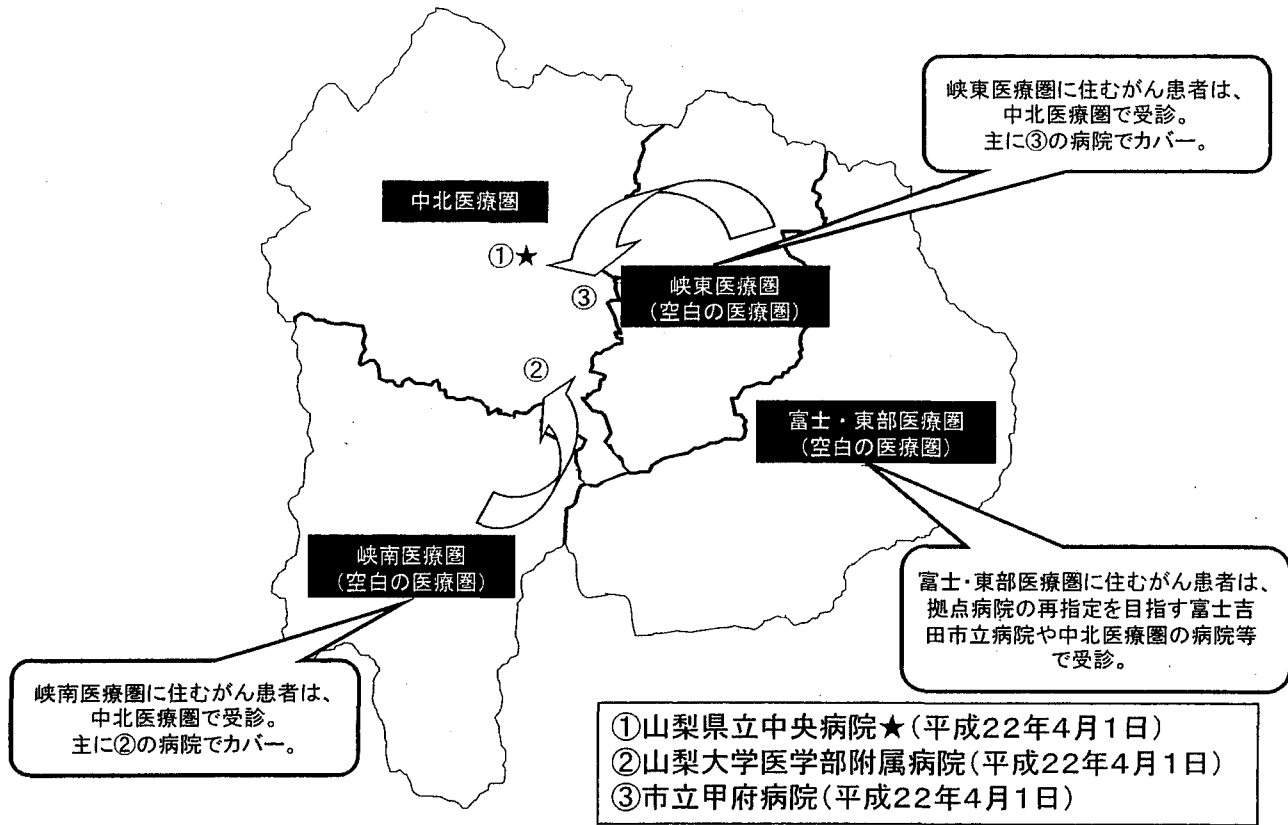


新規指定推薦のある都道府県

19. 山梨県、 1. 北海道、 2. 青森県、
8. 茨城県、 43. 熊本県、 46. 鹿児島県、
44. 大分県、 13. 東京都、 9. 栃木県、
14. 神奈川県、 27. 大阪府

19. 山 梨 県

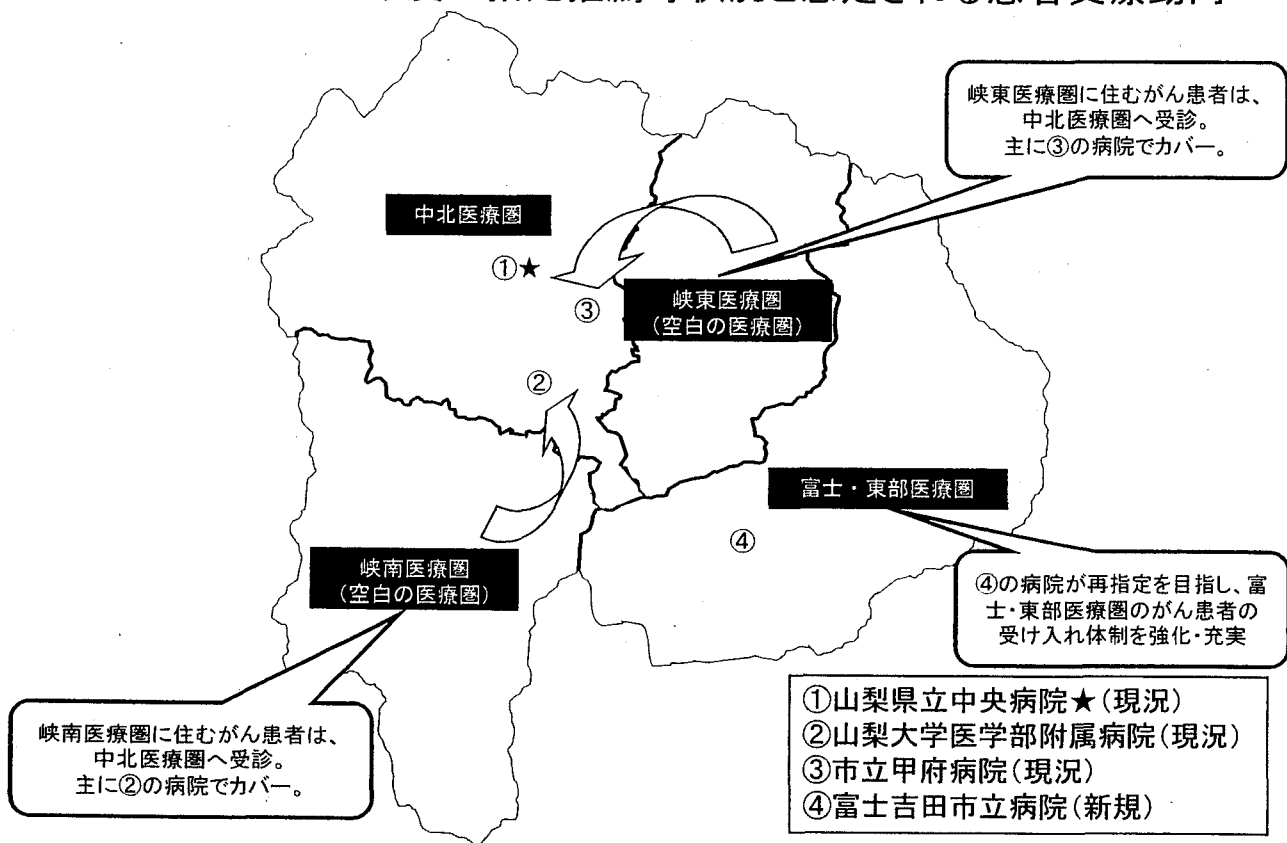
山梨県 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6～7月、H22年度は4～7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物療法 ※1		緩和ケア	相談支援センター	地域連携				
			年間 新入院 がん患者 数(1～ 12月)	年間 新入院 患者数に 占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 件数	肺がん		胃がん手術			大腸がん 手術			肝臓がん		乳がん	年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法 のべ患者数				緩和 ケア チーム に対する 新診療 依頼数 (6～7 月の集 計)	相談 支援 セン ター 相談 件数	病連 携・ 病診 連の 受入 数(6 ～7 月の 集計)	
						開 胸 手 術	胸 腔 鏡 下 手 術	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	ESD ± EMR ※2	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	内 視 鏡 手 術	開 腹 手 術	ラ ジ オ 波 焼 灼 療 法		乳 癌 手 術	体 外 照 射	小 線 源 治 療							入 院 患 者 数
1	★	現況	山梨県立中央病院	(1,485) 1,465	(12.6) 11.8	(61) 488	(1) 8	(3) 5	(18) 35	(0) 1	(0) 25	(7) 48	(0) 16	(0) 101	(9) 8	(0) 101	(20) 42	(528) 530	(11) 14	(180) 316	(161) 607	(8) 9	(132) 107	(48) 489		
2		現況	山梨大学医学部附属病院	(2,639) 1,653	(26.0) 20.4	(139) 403	(2) 12	(6) 14	(10) 10	(1) 5	(12) 12	(15) 25	(0) 0	(4) 49	(12) 15	(14) 27	(19) 24	(417) 521	(15) 10	(320) 372	(212) 625	(30) 58	(390) 471	(303) 254		
3		現況	市立甲府病院	(1,219) 1,102	(17.3) 17.0	(35) 58	(6) 4	(2) 7	(3) 7	(0) 0	(0) 0	(6) 11	(0) 0	(0) 33	(1) 3	(0) 0	(5) 5	(259) 254	(0) 0	(49) 82	(96) 761	(5) 1	(79) 72	(94) 105		
4		新規	富士吉田市立病院	(672) 673	(11.4) 11.4	(50) 104	(0) 2	(1) 0	(7) 7	(1) 2	(0) 0	(4) 13	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(4) 8	(30) 31	(0) 0	(25) 28	(59) 74	(2) 3	(8) 8	(5) 27		

山梨県 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る山梨県の考え方



全ての医療圏において、質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を図ることは重要と認識

現 状

- 高度で専門的な医療機関が、中北医療圏に集中しており、二次医療圏ごとに拠点病院が整備できていない
- 特に、**富士・東部医療圏**においては、医療資源が充実する中北医療圏との格差があるとともに、地理的条件から、がん患者が中北医療圏の医療機関を利用しにくい状況

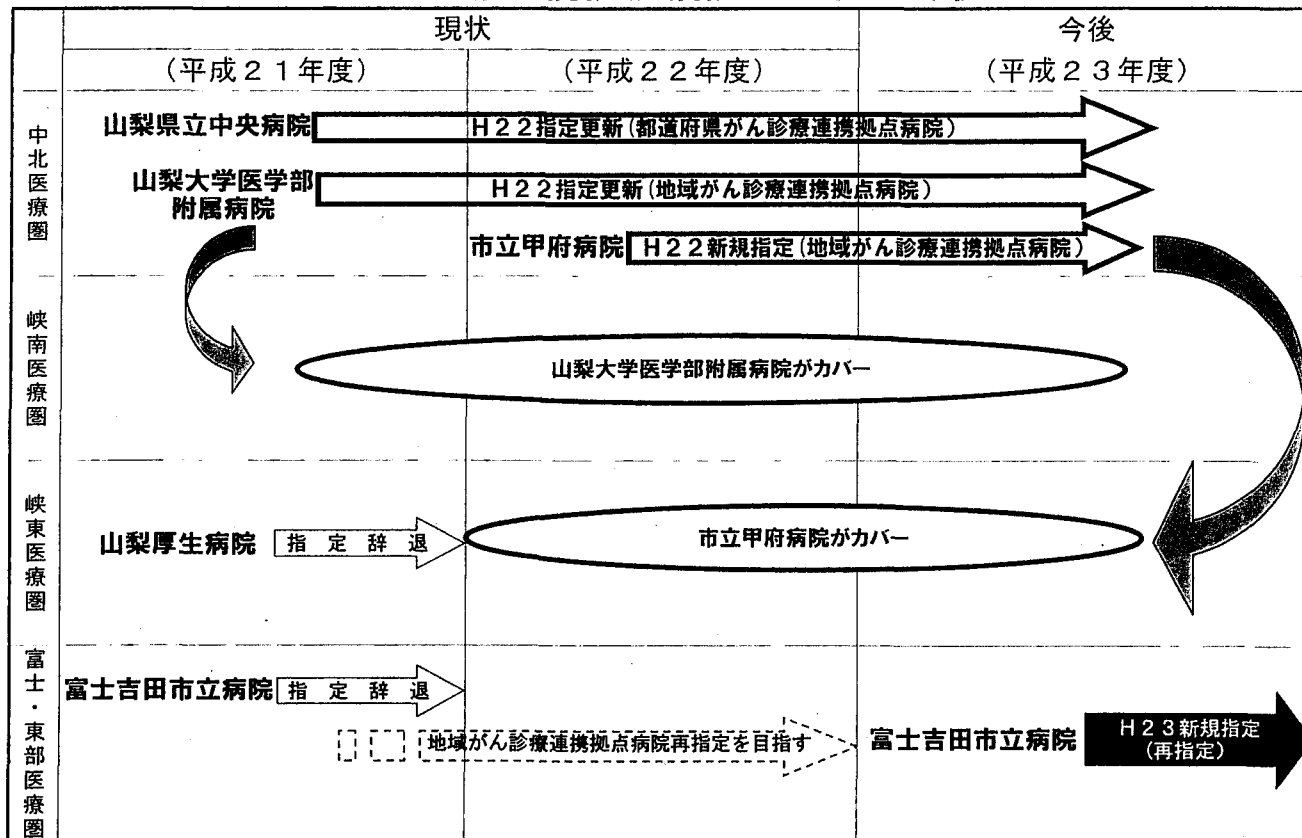
対 応

《再指定を目指して今回推薦 (富士・東部医療圏 富士吉田市立病院) 》

富士吉田市立病院が行うがん診療体制の強化・充実に対して、積極的に支援し、自圏域内でがん医療を完結できる体制を構築

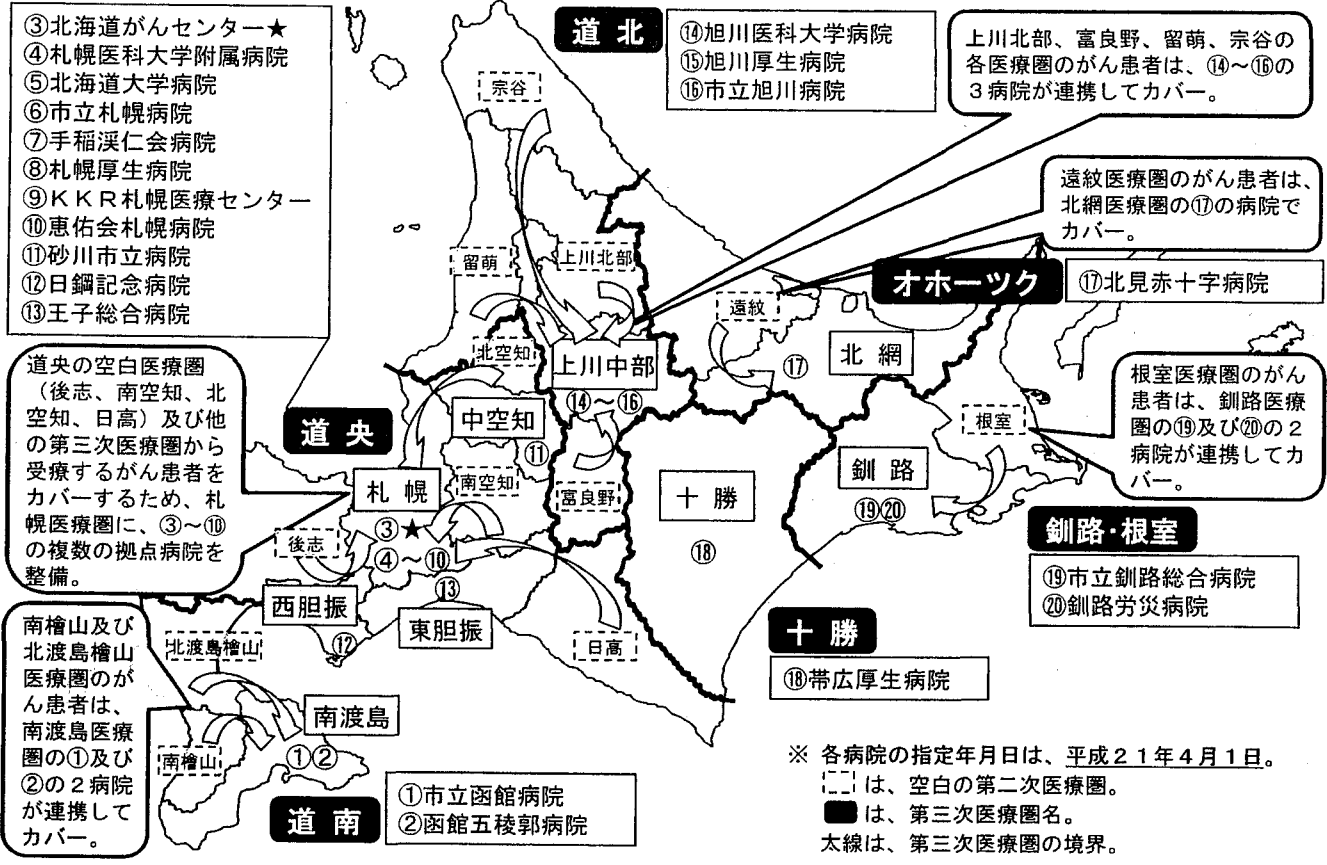
峡東医療圏と峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等の観点から、これらの地域を中北医療圏内の病院でカバーする体制を維持

がん診療連携拠点病院の現状と今後



1. 北 海 道

北海道 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



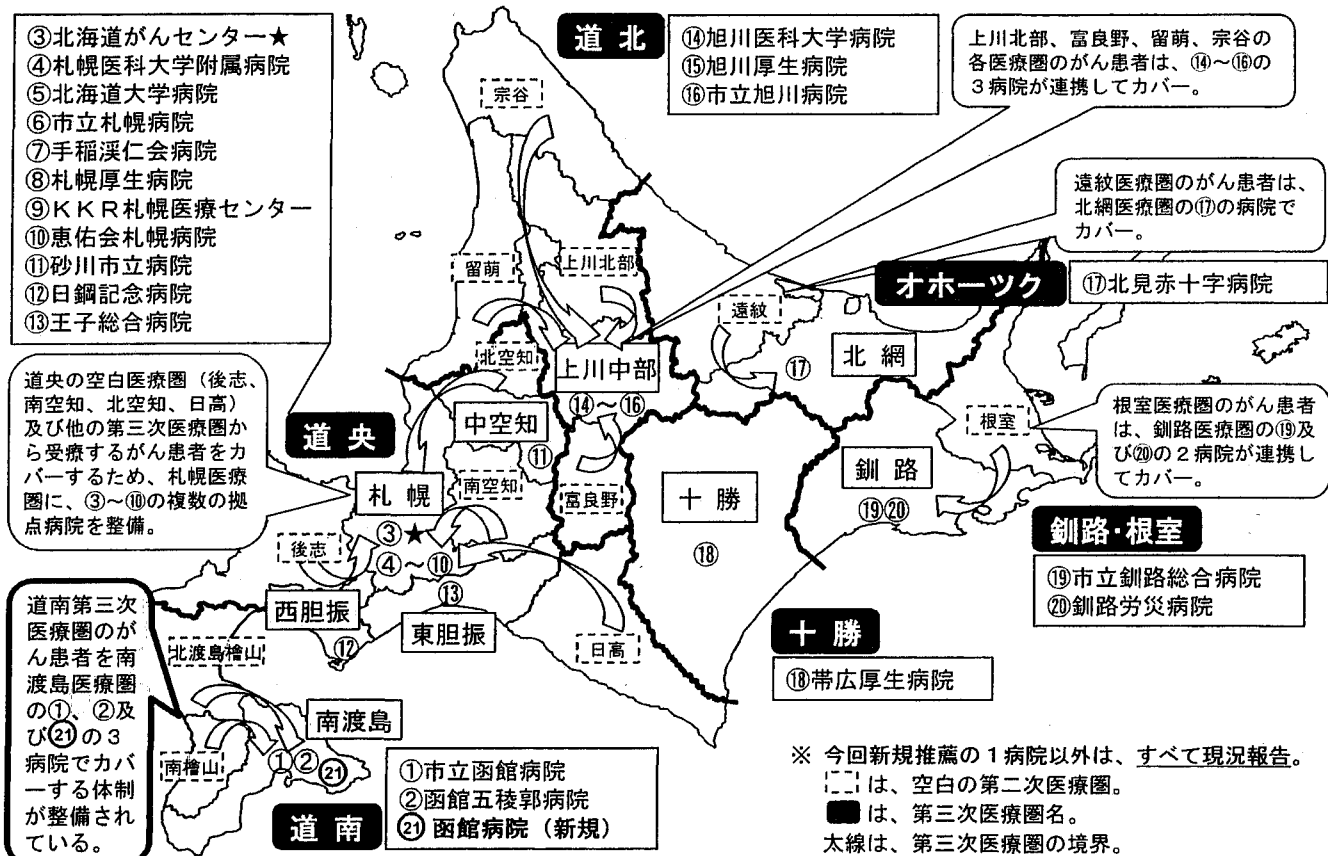
上段のかつこ内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値。
(※)は、H21年度は6～7月、H22年度は4～7月の実績。

都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況			治療件数(手術件数)の集計(※)													放射線治療		がんに係る薬物療法(※)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
			年間新入院患者数(1月～12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月～12月)	薬物療法のべ患者数	入院患者数	外来患者数					
						開胸手術	胸腔鏡手術	開腹手術	腹腔鏡手術	ESD+EMR	開腹手術	腹腔鏡手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術					体外照射	小線源治療			
1	現況	市立函館病院	(2020) 3,083	(22.6) 28.9	(78) 198	(0) 2	(4) 1	(10) 21	(2) 1	(2) 14	(11) 27	(6) 20	(5) 8	(4) 6	(12) 16	(10) 21	(404) 529	(0) 0	(281) 615	(375) 1,039	(35) 21	(75) 86	(68) 86		
2	現況	函館五稜郭病院	(3871) 4,366	(32.7) 36.0	(157) 364	(0) 0	(17) 24	(11) 27	(8) 7	(6) 9	(10) 17	(19) 41	(0) 0	(4) 10	(3) 3	(28) 45	(305) 411	(0) 0	(420) 1,053	(642) 1,205	(20) 20	(545) 365	(476) 458		
3	★ 現況	北海道がんセンター	(4242) 4,489	(70.7) 71.6	(240) 520	(1) 3	(24) 61	(8) 11	(3) 5	(4) 7	(7) 23	(5) 5	(3) 5	(2) 4	(0) 4	(41) 97	(1458) 1,354	(133) 46	(106) 1,549	(256) 1,032	(53) 64	(554) 374	(457) 585		
4	現況	札幌医科大学附属病院	(3986) 3,794	(29.6) 28.6	(100) 430	(0) 4	(17) 36	(11) 6	(4) 10	(3) 14	(10) 12	(11) 28	(4) 16	(4) 13	(8) 14	(14) 35	(773) 781	(54) 54	(317) 268	(168) 176	(30) 35	(163) 17	(22) 28		
5	現況	北海道大学病院	(4151) 4,852	(31.2) 35.1	(211) 482	(5) 2	(23) 19	(1) 8	(0) 4	(10) 13	(4) 4	(6) 8	(10) 3	(1) 27	(26) 23	(23) 30	(1270) 1,128	(26) 13	(284) 397	(442) 284	(50) 29	(164) 274	(582) 204		
6	現況	市立札幌病院	(3029) 3,040	(20.9) 20.9	(212) 421	(4) 8	(9) 17	(13) 27	(0) 0	(6) 12	(16) 35	(2) 3	(1) 2	(6) 11	(7) 9	(12) 22	(562) 546	(0) 0	(276) 550	(111) 249	(37) 26	(60) 80	(82) 83		
7	現況	手稲溪仁会病院	(3174) 3,277	(20.4) 20.4	(318) 498	(0) 7	(8) 22	(10) 19	(9) 13	(14) 24	(11) 38	(16) 34	(11) 14	(5) 11	(23) 41	(10) 19	(155) 367	(0) 0	(185) 294	(442) 1,178	(20) 22	(271) 175	(301) 283		
8	現況	札幌厚生病院	(2718) 2,039	(30.0) 21.7	(210) 483	(0) 2	(8) 4	(7) 13	(19) 18	(24) 39	(16) 17	(2) 11	(11) 25	(11) 18	(29) 80	(7) 20	(447) 419	(11) 8	(288) 684	(267) 259	(9) 4	(39) 91	(82) 113		
9	現況	KKR札幌医療センター	(1820) 2,079	(18.4) 19.3	(113) 200	(0) 3	(12) 8	(5) 11	(3) 8	(17) 28	(16) 30	(4) 6	(11) 11	(0) 3	(4) 11	(23) 37	(450) 485	(0) 0	(142) 188	(91) 153	(5) 4	(903) 1,124	(75) 112		
10	現況	恵佑会札幌病院	(3953) 4,378	(61.7) 62.7	(321) 562	(14) 10	(8) 18	(23) 37	(28) 29	(22) 35	(60) 81	(1) 11	(12) 170	(8) 7	(0) 1	(1) 10	(613) 544	(0) 0	(194) 276	(143) 247	(14) 24	(364) 229	(448) 369		

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数(手術件数)の集計(※)													放射線治療		がんに係る 薬物療法 (※)		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域 連携
			年間新 入院患 者数 (1月 ~12 月)	年間新 入院患 者に 占める がん患 者の 割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん			胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳 がん	年間患者 実数 (1月~12月)		薬物療法 のべ患者 数				
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	ESD + EMR	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術		体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
11	現況	砂川市立病院	(1407) 1,656	(18.2) 20.9	(90) 139	(0) 0	(3) 5	(7) 8	(0) 0	(3) 4	(11) 17	(0) 0	(1) 1	(3) 7	(0) 0	(5) 11	(23) 179	(0) 0	(145) 315	(284) 593	(5) 4	(79) 150	(205) 62	
12	現況	日鋼記念病院	(1293) 1,392	(21.6) 20.1	(48) 77	(1) 2	(1) 4	(1) 8	(1) 1	(5) 0	(7) 15	(2) 7	(7) 2	(2) 4	(2) 1	(4) 10	(273) 260	(0) 0	(84) 499	(67) 368	(8) 34	(177) 112	(80) 103	
13	現況	王子総合病院	(1881) 2,033	(23.0) 23.2	(183) 214	(0) 1	(8) 15	(9) 15	(1) 0	(5) 25	(14) 30	(3) 9	(4) 6	(2) 5	(3) 2	(5) 19	(450) 240	(0) 0	(132) 200	(134) 209	(11) 17	(15) 23	(130) 72	
14	現況	旭川医科大学病院	(2547) 2,827	(24.3) 26.7	(174) 339	(0) 0	(6) 8	(6) 10	(3) 8	(10) 10	(8) 31	(0) 2	(1) 3	(0) 16	(5) 3	(39) 72	(439) 467	(13) 9	(200) 159	(80) 133	(8) 25	(15) 152	(121) 115	
15	現況	旭川厚生病院	(2536) 2,617	(24.1) 32.4	(166) 305	(0) 1	(8) 10	(9) 20	(8) 5	(6) 21	(17) 34	(4) 19	(2) 0	(0) 0	(7) 8	(10) 24	(642) 555	(28) 25	(149) 403	(192) 532	(13) 25	(67) 160	(23) 31	
16	現況	市立旭川病院	(1880) 1,821	(22.8) 24.6	(96) 278	(0) 0	(1) 9	(6) 12	(4) 4	(8) 18	(14) 35	(6) 13	(3) 3	(0) 2	(4) 7	(5) 17	(274) 225	(3) 3	(335) 121	(241) 326	(6) 5	(25) 35	(214) 105	
17	現況	北見赤十字病院	(1854) 2,343	(19.3) 22.6	(111) 194	(0) 10	(5) 9	(7) 2	(9) 15	(1) 14	(9) 32	(19) 20	(5) 1	(2) 6	(1) 36	(13) 66	(615) 754	(0) 0	(125) 358	(140) 606	(2) 0	(50) 67	(84) 165	
18	現況	帯広厚生病院	(1869) 1,105	(19.4) 11.4	(147) 316	(0) 0	(11) 17	(4) 11	(5) 9	(9) 48	(13) 23	(6) 21	(4) 24	(2) 6	(17) 14	(16) 25	(442) 542	(11) 6	(206) 161	(408) 1,168	(7) 6	(74) 75	(493) 200	
19	現況	市立釧路総合病院	(2005) 1,278	(20.9) 17.0	(170) 256	(1) 8	(5) 5	(11) 14	(1) 0	(1) 6	(7) 21	(1) 6	(4) 0	(0) 0	(10) 13	(5) 14	(340) 359	(11) 9	(174) 202	(119) 138	(3) 5	(168) 52	(107) 81	
20	現況	釧路労災病院	(1814) 1,141	(25.7) 14.7	(146) 205	(2) 3	(0) 0	(5) 16	(1) 3	(8) 12	(22) 19	(2) 5	(2) 60	(4) 0	(1) 2	(19) 41	(329) 290	(0) 0	(122) 115	(100) 182	(3) 4	(3) 287	(1309) 943	
21	新規	函館病院	1,385	43.4	96	5	18	6	3	2	5	8	15	1	2	12	209	12	194	74	20	94	439	

資料3

北海道 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 北海道におけるがん診療連携拠点病院の整備の考え方

(1) 基本的な考え方

区分	計画等における考え方
北海道医療計画	がんの医療連携圏域は、高度で専門的な医療サービスの提供を目指す圏域である第三次医療圏単位
北海道がん対策推進計画	(計画期間中の整備目標) 都道府県がん診療連携拠点病院 1病院、 地域がん診療連携拠点病院 20病院
がん診療連携拠点病院整備方針	国の整備指針に規定された指定要件を満たす病院が、特定の第二次医療圏に偏在している現状を踏まえ、未整備の第二次医療圏をカバーする体制を構築するため、計画期間内においては、概ね第三次医療圏を基本に整備

(2) 平成23年度に向けた推薦の考え方

- 道が策定した計画等の考え方沿って、さらに地域がん診療連携拠点病院の整備を目指す。
- 新規指定に向けては、国の整備指針に規定する必須指定要件のほか、次の評価項目に係る充足状況を加味した総合評価を行い、外部評価も経て、最も相応しい病院1か所を絞り込み、推薦。

【推薦病院選定のポイントと評価項目】

選定のポイント	評価項目
① 専門的ながん医療の推進	・常勤が原則とされる専門医の確保（放射線・化学療法・身体症状緩和・病理診断） ・年間入院がん患者延べ人数が1,200人以上
② がん診療連携体制の確立	・他の医療圏との連携体制の整備
③ がん患者に対する相談支援及び情報提供	・空白医療圏への対応も念頭に置いた相談支援等の実施

【第三次医療圏の現状から見た整備の必要性】

	道南	道央	道北	釧路	十勝	網走・根室	全道計
二次医療圏数	3	8	5	2	1	2	21
既指定拠点病院数	2	11	3	1	1	2	20
空白二次医療圏数	2	4	4	1	-	1	12
指定要件充足病院数 (既指定分を除く)	1	4	-	-	-	-	5
今回新規推薦病院数	1	-	-	-	-	-	1

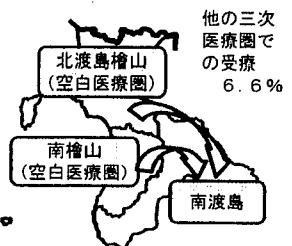
空白医療圏の割合が高い第三次医療圏では、マンパワー・移動コスト等の面から、診療支援に伴う拠点病院の負担が大きく、がん医療を担う医療機関の整備・充実が望まれる。

2 国立病院機構函館病院の新規推薦について

(1) 道南第三次医療圏における国立病院機構函館病院の位置付け

- 推薦病院の所在する「南渡島」第二次医療圏は、隣接する「南檜山」「北渡島檜山」及び青森県北端沿岸の一部とで形成する広域生活圏の中心に位置。
- 空白医療圏となっている南檜山及び北渡島檜山の入院がん患者のうち、南檜山では58%、北渡島檜山では36%が南渡島圏で受療。
- 函館病院の病床数は、圏域内で指定済み2拠点病院の半数程度であるが、肺がん、乳がん、食道がんについては、同程度以上の治療実績。
- また、放射線治療のうち小線源治療や子宮頸がんの腔内照射などは、圏域内有数の実績。

	面積 (m ²)	二次医療圏数	拠点病院数
道南医療圏	6,566	3	2
参考 栃木県	6,708	7	5
参考 島根県	6,408	5	5



【医療圏内の受療割合（入院）】

医療圏	割合 (%)
道南第三次医療圏	93.4
南渡島	95.1
南檜山	30.0
北渡島檜山	44.5

【新入院のべがん患者数 (H22.4~7月)】

	肺	胃	大腸	肝	乳
函館病院	150	62	88	34	116
市立函館	141	112	169	86	60
函館五稜郭	213	139	193	59	66

(2) 国立病院機構函館病院の特徴と新規指定の効果

	国立病院機構函館病院の特徴	新規指定により見込まれる効果
専門的ながん医療の推進	・30年以上前から放射線療法を積極的に推進 ・H21年12月にリニアックの最新機器を導入 ・日本放射線学会認定医、病理専門医を各2名常勤配置 ・国立がん研究センター中央病院レジデント卒業生を配置	・道南第三次医療圏における放射線療法の実施 ・指定済みの2つの拠点病院との連携による集学的治療の提供体制の強化 ・専門的、先進的ながん医療の導入推進
がん診療連携体制の確立	・バーチャルレントゲン室を整備 ・拠点病院を含めた圏域内の医療機関から、乳がん、子宮頸がんなどの外来患者を多数受入れ ・道南圏初のリンパ浮腫外来の設置 ・地域の医師に配慮した緩和研修会の開催	・空白圏域における画像診断支援体制の充実 ・道南第三次医療圏における我が国に多いがんや女性特有のがんに係る診療連携体制の整備・充実 ・道央圏へ通院していたがん患者の負担の大幅軽減 ・空白医療圏における緩和ケア医療の充実
相談支援・情報提供	・常勤専従相談員を3名配置 ・空白医療圏の自治体と連携した出張講演会の開催	・空白医療圏における相談支援機能をカバーする体制の充実 ・道内の第三次医療圏別で最低位にある道南第三次医療圏のがん検診受診率の向上 一全道の受診率向上に寄与

南渡島圏3病院の連携により、道南第三次医療圏におけるがん医療の均てん化を実現。

2. 青 森 県

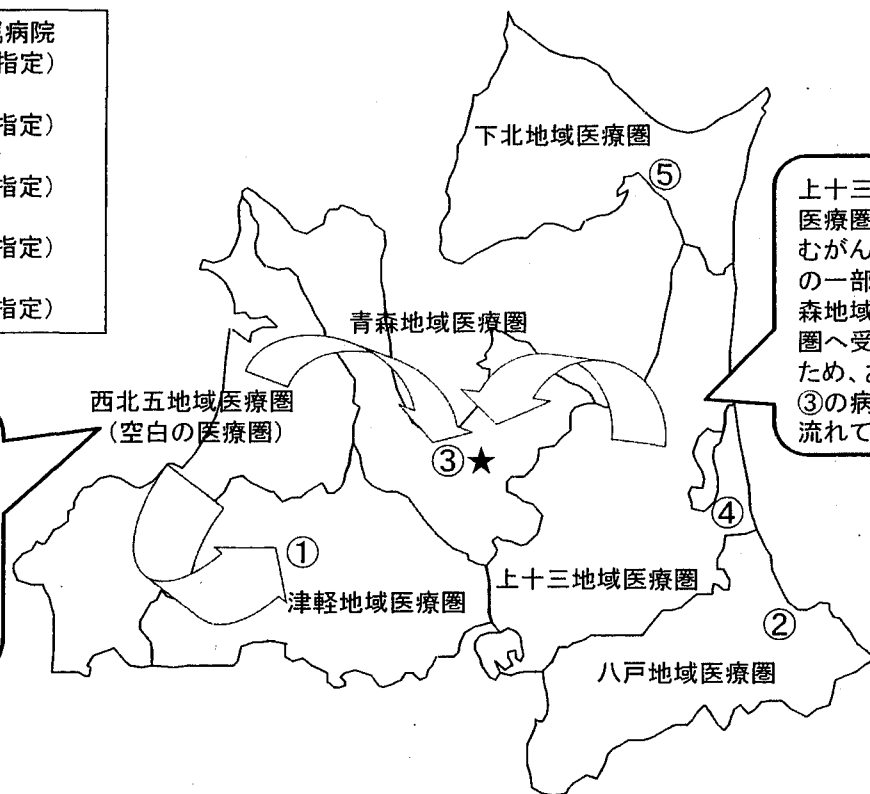
-27-

資料 1

青森県 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

- ①弘前大学医学部附属病院
(平成22年4月1日指定)
- ②八戸市立市民病院
(平成22年4月1日指定)
- ③青森県立中央病院★
(平成22年4月1日指定)
- ④三沢市立三沢病院
(平成22年4月1日指定)
- ⑤むつ総合病院
(平成22年4月1日指定)

西北五地域医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域医療圏へ受診するため、おもに①の病院で、一部を③の病院でカバーしている。



上十三地域医療圏に住むがん患者の一部は、青森地域医療圏へ受診するため、おもに③の病院へ流れている。

-28-

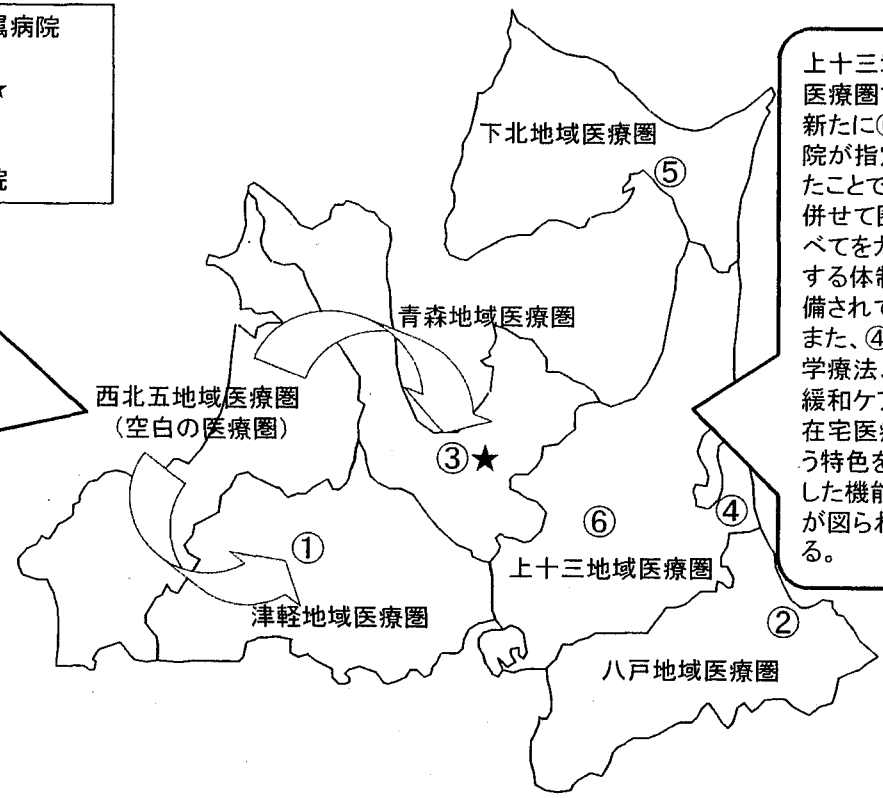
※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物療法 ※1		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域 連携		
			年間 新入 院が ん者 数 (1月 ~12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合 (%)	悪 性 腫 瘍 手 術 総 数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)					薬物療法のべ 患者数	
						開 胸 手 術	胸 腔 鏡 下 手 術	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	ESD ± EMR ※2	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	内 視 鏡 手 術	開 腹 手 術	ラジ オ 波 焼 灼 療 法	乳 癌 手 術	体 外 照 射	小 線 源 治 療	入 院 患 者 数				外 来 患 者 数	緩 和 ケ ア チ ー ム に 対 す る 新 規 診 療 依 頼 数 (6~7 月の 集 計)
1	現況	弘前大学附属病院	(1280) 1193	(13.8) 12.1	(271) 476	(8) 7	(4) 17	(22) 17	(1) 5	(14) 27	(11) 56	(9) 2	(4) 10	(10) 11	(7) 6	(21) 31	(617) 665	(33) 22	(191) 645	(217) 947	(24) 24	(47) 46	(271) 181	
2	現況	八戸市立市民病院	(2650) 1440	(30.1) 13.2	(63) 128	(4) 8	(8) 14	(11) 16	(0) 1	(2) 0	(12) 34	(4) 0	(0) 0	(0) 4	(2) 2	(17) 48	(190) 294	(0) 0	(291) 277	(399) 529	(29) 39	(127) 175	(208) 234	
3	★ 現況	青森県立中央病院	(2976) 3313	(22.8) 24.8	(182) 337	(1) 3	(16) 24	(16) 27	(0) 0	(3) 1	(33) 56	(0) 0	(16) 20	(1) 2	(6) 40	(24) 26	(334) 341	(11) 1	(256) 550	(313) 672	(20) 18	(240) 249	(179) 772	
4	現況	三沢市立三沢病院	(748) 955	(20.4) 27.2	(21) 39	(0) 0	(0) 0	(3) 1	(0) 0	(0) 1	(3) 8	(0) 0	(3) 0	(1) 1	(4) 3	(8) 17	(86) 88	(0) 0	(258) 106	(349) 131	(6) 3	(28) 25	(43) 2	
5	現況	むつ総合病院	(988) 566	(17.4) 11.1	(28) 73	(0) 0	(0) 0	(5) 7	(0) 0	(3) 4	(10) 18	(0) 0	(0) 3	(3) 2	(1) 2	(3) 5	(48) 52	(0) 0	(64) 220	(84) 84	(4) 5	(6) 17	(853) 87	
6	新規	十和田市立中央病院	938	17.4	71	0	0	5	0	8	9	4	1	2	0	10	106	0	92	121	52	36	86	

青森県 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

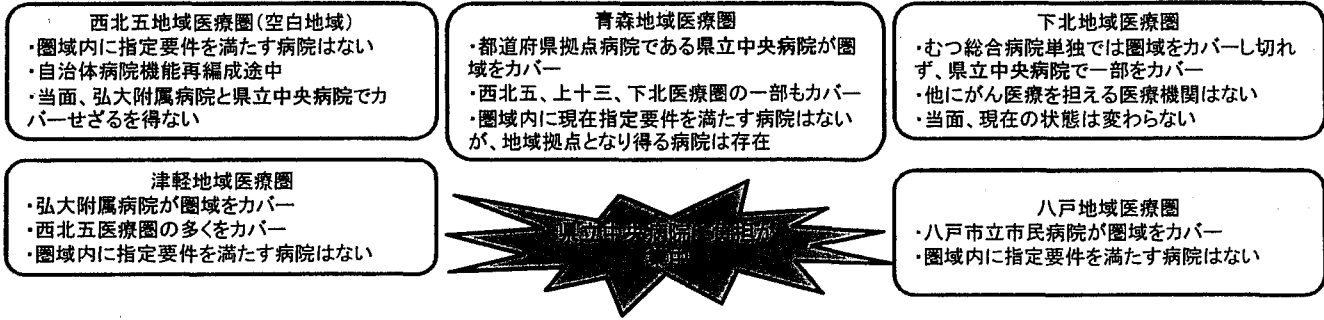
- ①弘前大学医学部附属病院
- ②八戸市立市民病院
- ③青森県立中央病院★
- ④三沢市立三沢病院
- ⑤むつ総合病院
- ⑥十和田市立中央病院

西北五地域医療圏に住むがん患者は、⑥の病院が指定され③への負担が軽減されたことに伴い、津軽地域及び青森地域医療圏へ受診するため、おもに①及び③の両病院でカバーする。



上十三地域医療圏では、新たに⑥の病院が指定されたことで、④と併せて圏域すべてをカバーする体制が整備されている。また、④は化学療法、⑥は緩和ケア及び在宅医療という特色を活かした機能分担が図られている。

今回の指定推薦等に係る青森県の考え方(1)

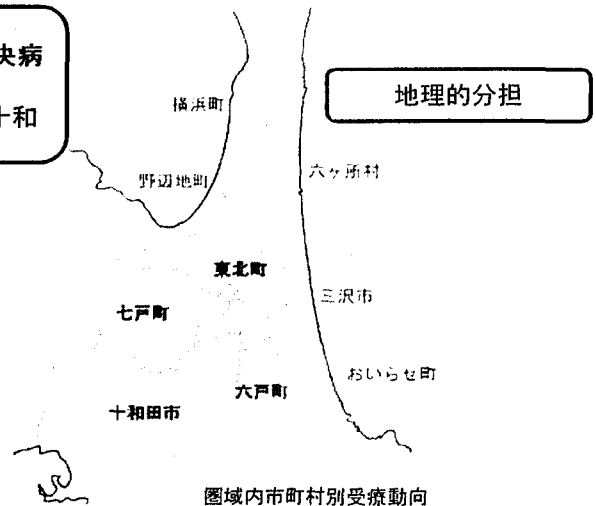


上十三地域医療圏

- ・三沢市立三沢病院単独では圏域をカバーし切れず、県立中央病院で一部をカバー
- ・圏域内に指定要件を具備し、がん医療を担える医療機関は十和田市立中央病院のみ

機能的分担

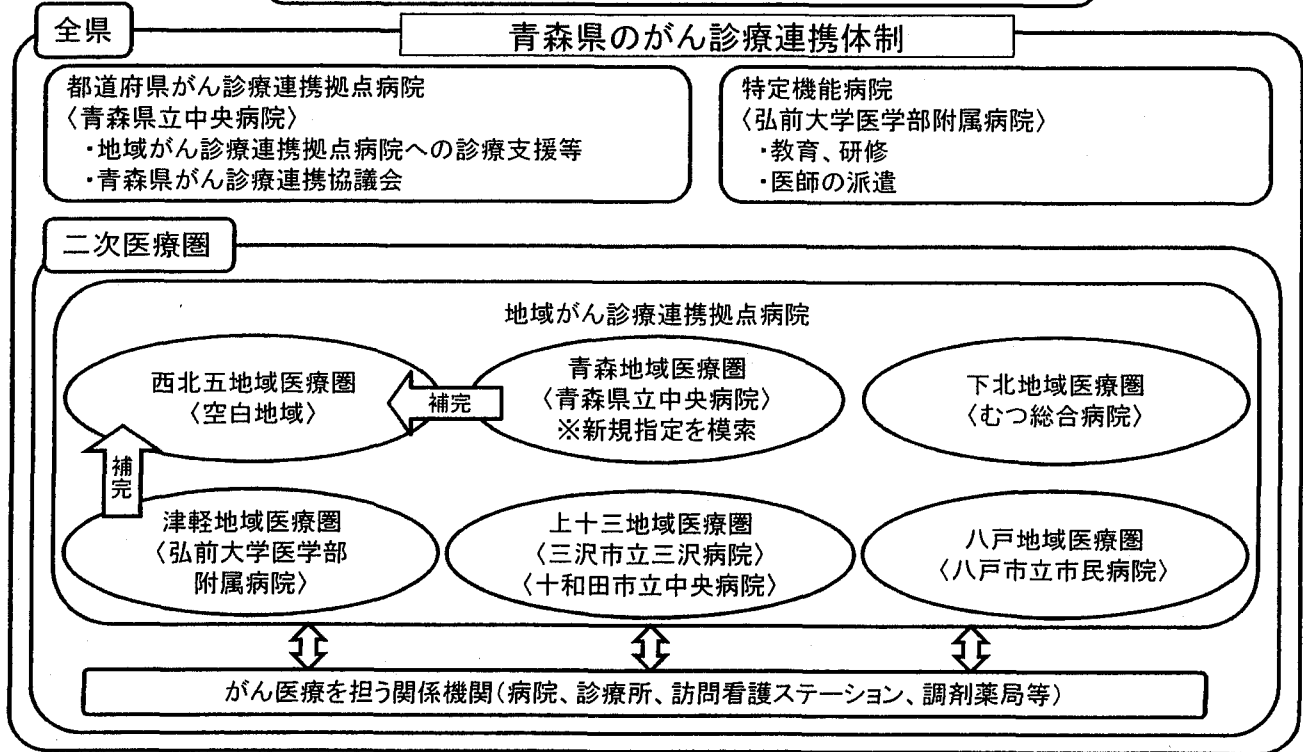
十和田市立中央病院	三沢市立三沢病院
・在宅医療 ・緩和ケア	・化学療法



今回の指定推薦等に係る青森県の考え方(2)

上十三地域医療圏

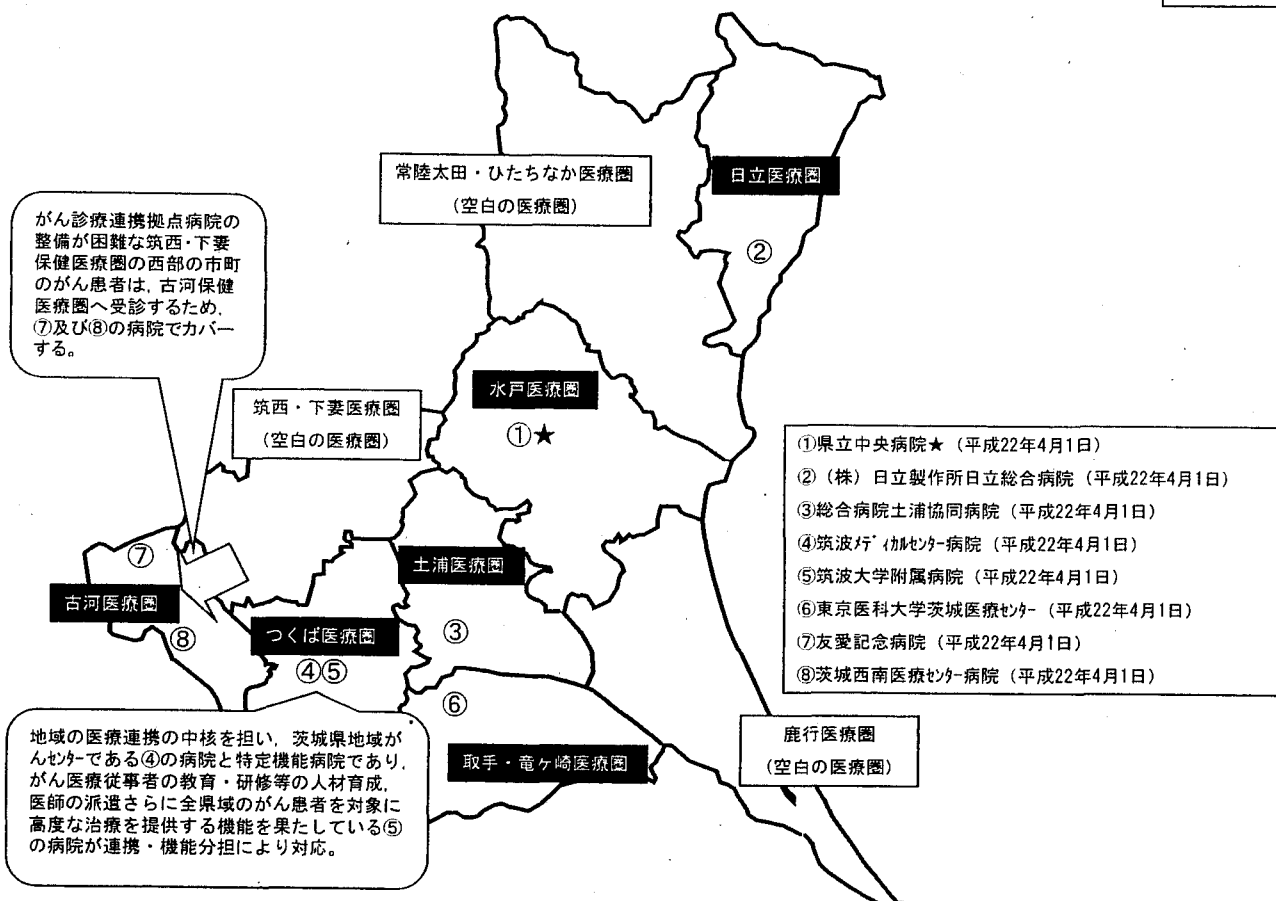
- ・三沢市立三沢病院及び十和田市立中央病院の2病院で圏域をカバー
- ・下北医療圏から県立中央病院に流れるがん患者の一部をカバー



8. 茨城県

茨城県 平成22年度4月1日現在の指定状況と患者受療動向

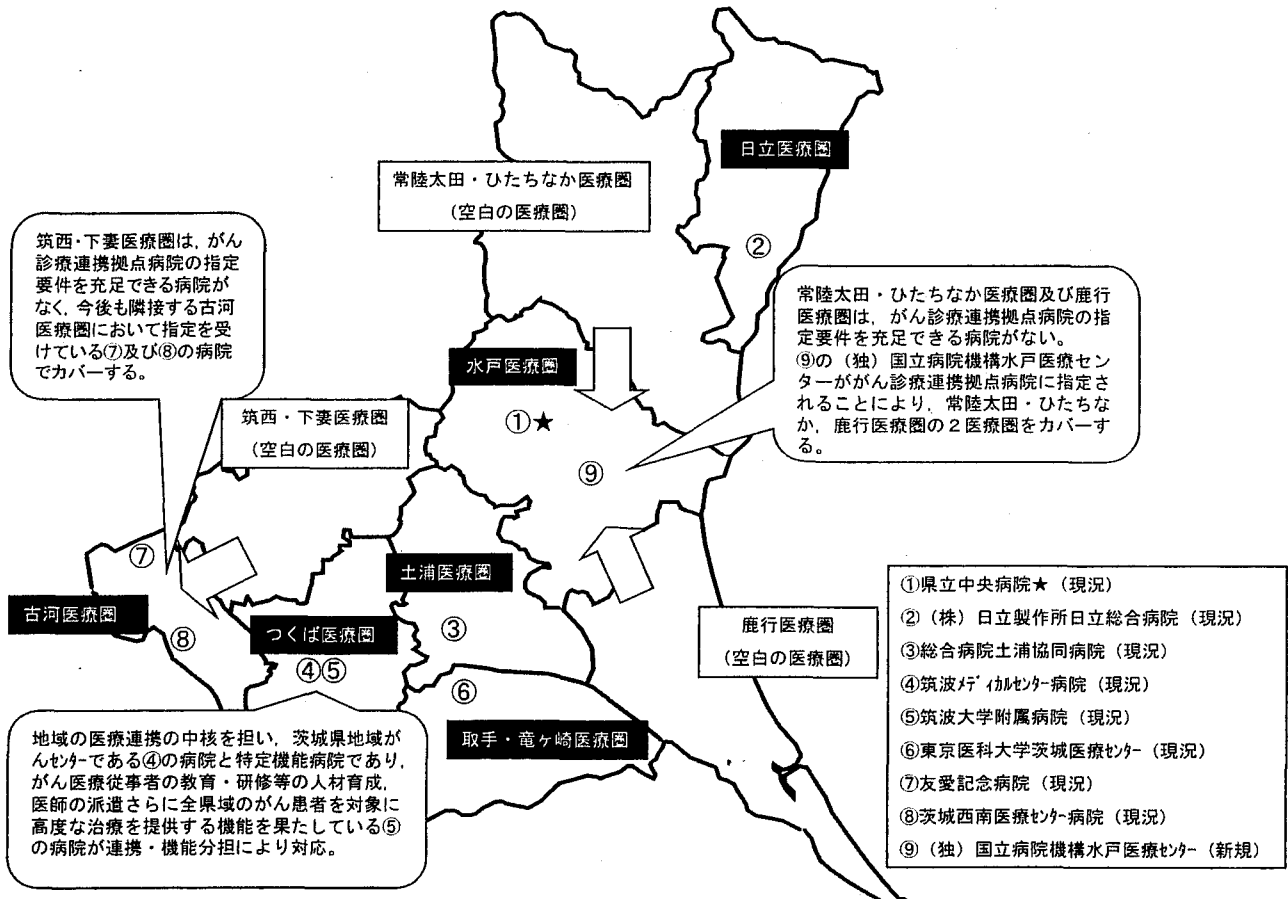
資料1



都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数（手術件数）の集計													放射線治療		がんに係る 薬物療法		緩和 ケア	相談 支援 センター	地域連 携
			年間 入院 患者 数 (1月～12 月)	年間 新規 がん 患者 数の 割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん			胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん	年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の 患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規 依頼 数 (6～7月 の集計)	相談 支援 センター 相談 件数	病連・病 診連の 受入 件数 (6～7月 の集計)
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	ESD + EMR	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラン ジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術		体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
★	現況	茨城県立中央病院	(3,383)	(39.6)	(158)	(25)	(5)	(12)	(0)	(9)	(11)	(0)	(0)	(0)	(7)	(12)	(12)	(480)	(12)	(159)	(409)	(10)	(287)	(241)
	現況	(株)日立製作所日立総合病院	(2,513)	(25.6)	(159)	(9)	(4)	(14)	(1)	(6)	(8)	(3)	(41)	(1)	(11)	(37)	(381)	(0)	(145)	(335)	(8)	(437)	(708)	
	現況	総合病院土浦協同病院	(2,631)	(16.7)	(190)	(4)	(4)	(10)	(19)	(8)	(12)	(13)	(2)	(1)	(6)	(11)	(357)	(22)	(160)	(232)	(15)	(384)	(213)	
	現況	筑波マ'イカルセンター病院	(2,735)	(30.3)	(116)	(12)	(1)	(15)	(0)	(1)	(14)	(0)	(3)	(0)	(0)	(34)	(536)	(0)	(86)	(377)	(27)	(208)	(218)	
	現況	筑波大学附属病院	(3,864)	(30.3)	(247)	(4)	(11)	(12)	(0)	(7)	(15)	(0)	(0)	(5)	(3)	(9)	(620)	(31)	(538)	(334)	(75)	(33)	(512)	
	現況	東京医科大学茨城医療センター	(1,346)	(16.1)	(80)	(7)	(4)	(6)	(3)	(0)	(2)	(1)	(1)	(3)	(9)	(151)	(0)	(188)	(244)	(5)	(78)	(431)		
	現況	友愛記念病院	(1,258)	(19.5)	(74)	(0)	(0)	(9)	(0)	(10)	(13)	(3)	(3)	(5)	(0)	(7)	(259)	(0)	(44)	(144)	(14)	(75)	(139)	
	現況	茨城西南医療センター病院	(1,544)	(21.0)	(57)	(0)	(5)	(2)	(4)	(3)	(8)	(0)	(1)	(0)	(2)	(5)	(0)	(57)	(98)	(6)	(103)	(80)		
	新規	(独)国立病院機構水戸医療センター	(2,139)	(23.1)	(256)	(0)	(8)	(21)	(4)	(11)	(36)	(9)	(47)	(6)	(2)	(41)	(350)	(0)	(192)	(520)	(5)	(151)	(307)	

※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値

茨城県 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向 資料 3



- ① 県立中央病院★ (現況)
- ② (株)日立製作所日立総合病院 (現況)
- ③ 総合病院土浦協同病院 (現況)
- ④ 筑波マ'イカルセンター病院 (現況)
- ⑤ 筑波大学附属病院 (現況)
- ⑥ 東京医科大学茨城医療センター (現況)
- ⑦ 友愛記念病院 (現況)
- ⑧ 茨城西南医療センター病院 (現況)
- ⑨ (独)国立病院機構水戸医療センター (新規)

○全ての県民がいつでも、どこでも安心して質の高いがん医療を受けることができるよう、がん医療水準の均てん化を推進するため、茨城県総合がん対策推進会議の議論を踏まえ、がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏である常陸太田・ひたちなか医療圏及び鹿行医療圏をカバーする病院として、水戸医療圏に所在する独立行政法人国立病院機構水戸医療センターを新規推薦することとした。

がん診療連携拠点病院間の機能的役割分担、がん患者の通院圏域

病院間の機能分担（水戸医療圏）

県立中央病院（県がん診療連携拠点病院）

○診療分野

我が国に多いがん及び肺がん、肝がん、膵がん等の進行・再発がんについて、患者の状態に応じた集学的治療を提供。

○研修分野

水戸医療圏の医療従事者を対象とした緩和ケア、早期診断等の研修会を実施。

○相談支援

がんのピアカウンセリング相談の実施。

（独）国立病院機構水戸医療センター

○診療分野

・主として常陸太田・ひたちなか医療圏及び鹿行医療圏に居住するがん患者の医療を担う。

・乳がん、食道がん、脳腫瘍、血液がん等について患者の状態に応じた集学的治療を提供。

○研修分野

常陸太田・ひたちなか医療圏及び鹿行医療圏の緩和ケア研修、早期診断等の研修会を実施。

指定されることによる効果

○がん診療連携拠点病院のない空白医療圏である、常陸太田・ひたちなか医療圏、鹿行医療圏を（独）国立病院機構水戸医療センターがカバーすることにより、

・本県において、がん診療連携拠点病院のない、空白の医療圏がカバーされる体制ができ、茨城県全域のがん医療の均てん化を推進する体制が整う。

・がん医療における有病・病診連携の推進が図られるとともに、地域の医療従事者の緩和ケア、早期診断等の研修会開催による人材育成の推進が図られる。

・がん患者やその家族等からのがん医療に関する相談支援体制の充実も図られ両医療圏のがん医療水準の向上が図られる。

がん患者の通院圏域

（独）国立病院機構水戸医療センター

○隣接医療圏の年間がん新入院患者割合

平成21年の年間新入院がん患者数2,139人のうち、843人（約40%）が隣接する常陸太田・ひたちなか医療圏や鹿行医療圏に居住するがん患者である。

茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がん、我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）の治療に対応

特定機能病院
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院等の医師等に対する高度のがん医療に関する研修の実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣

都道府県がん診療連携拠点病院

- 県立中央病院・茨城県地域がんセンター
- ・茨城県がん診療連携協議会の運営
- ・緩和ケア、各種研修に関する計画作成
- ・地域連携クリティカルパスの整備

連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）を中心に治療を提供 5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応

水戸医療圏

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- <機能分担>
- ・肺がん、肝がん、膵がん、等の進行・再発がんの治療
 - ・がんのピアカウンセリング相談を実施するなど、相談支援の拠点

（独）国立病院機構水戸医療センター

- <機能分担>
- ・常陸太田・ひたちなか医療圏、鹿行医療圏をカバー
 - ・乳がん、食道がん、脳腫瘍、血液がん（専門分野）

カバー

常陸太田・ひたちなか医療圏、鹿行医療圏

日立医療圏

（株）日製日立総合病院

- ・茨城県地域がんセンターとしてH15年より高度ながん医療を提供
- ・肝疾患診療連携拠点病院

土浦医療圏

総合病院土浦協同病院

- ・茨城県地域がんセンターとしてH7年より高度ながん医療を提供
- ・高度な放射線治療を提供

取手・竜ヶ崎医療圏

東京医科大学茨城医療センター

- ・婦人科がん、泌尿器系がん等に高い実績
- ・がん医療に携わる医師の派遣
- ・肝疾患診療連携拠点病院

つくば医療圏

筑波大学附属病院

- <機能分担>
- ・多臓器にまたがる難治がん
 - ・進行・再発がん・希少がんに対し全県対応
 - ・がん医療に携わる医師の派遣

筑波行 がんセンター病院

- 茨城県地域がんセンターとしてH11年より高度ながん医療を提供
- <機能分担>
- ・県内病院の緩和ケア体制の整備・普及に対し指導的な役割

古河医療圏

友愛記念病院

- <機能分担>
- ・食道がん、膵がん、血液のがん、緩和ケア
 - ・筑西・下妻医療圏も含めた医療従事者の研修会等を開催

茨城西南医療センター病院

- <機能分担>
- ・肺がん、脳腫瘍、泌尿器がん
 - ・筑西・下妻医療圏も含めた医療従事者の研修会等を開催

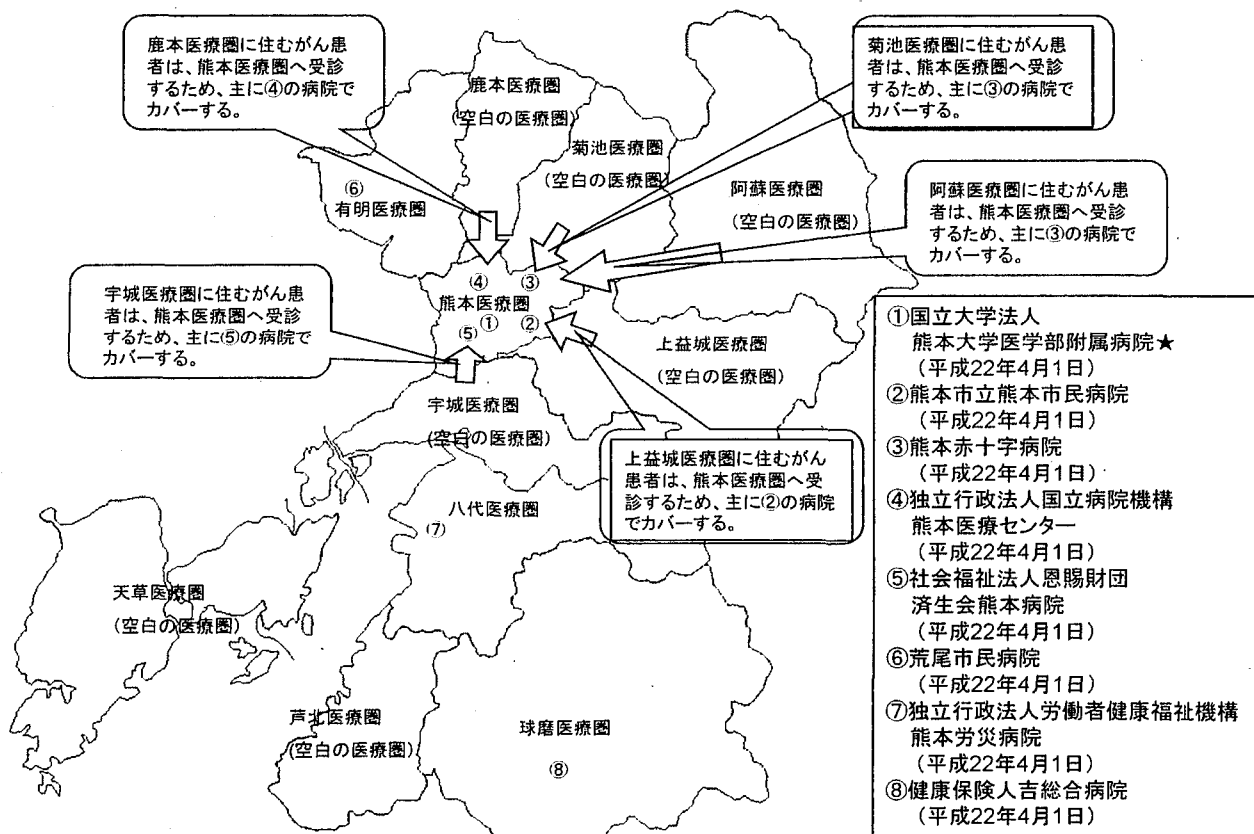
2病院でカバー

筑西・下妻医療圏

43. 熊 本 県

資料 1

熊本県 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



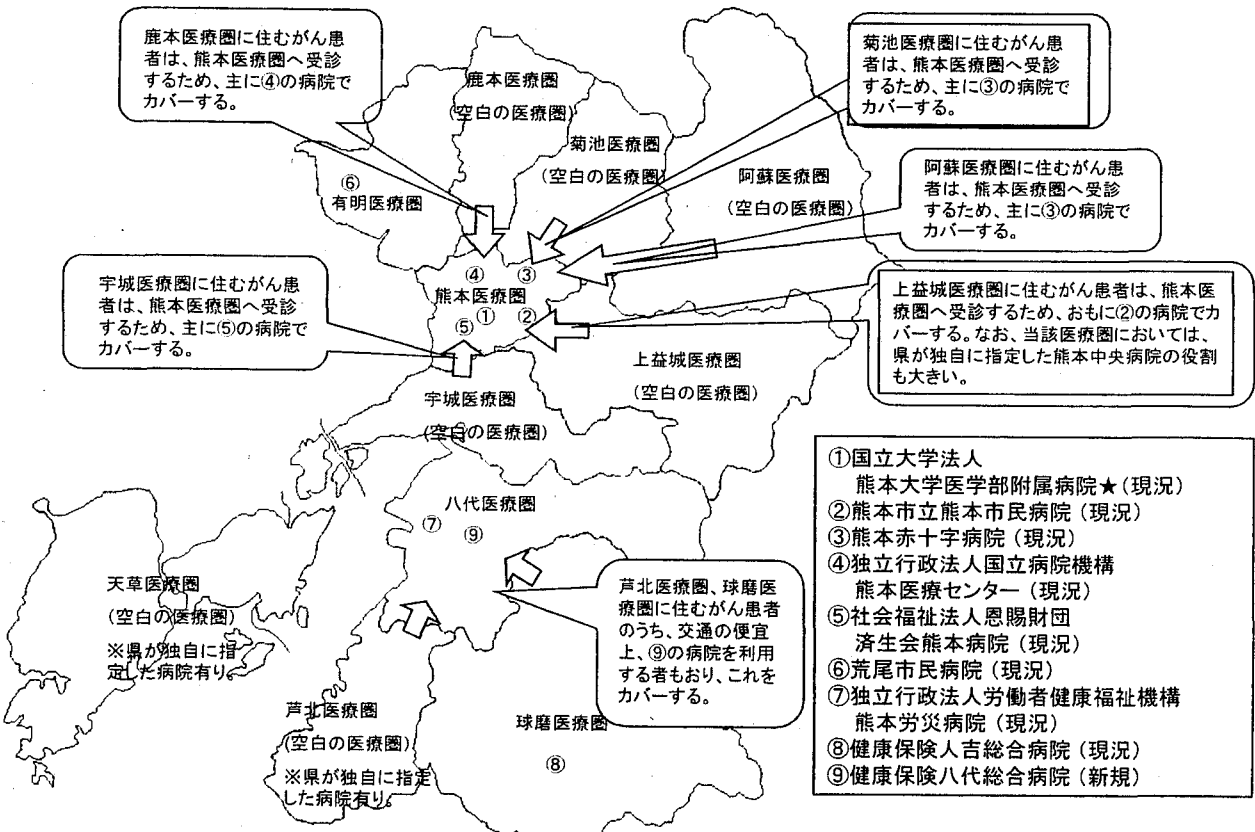
※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績

資料2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)の集計※1											放射線治療		がんに係る 薬物療法※1		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域 連携	
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ~12 月)	年間 新入 院患 者数 に 占め るが ん患 者 の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳が ん	年間患者実数 (1月~12月)		薬物療法 の患者数						
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	ESD + EMR 手術	開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	内視 鏡手 術		開腹 手術	腹腔 鏡下 手術	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数				外来 患者 数
1	★	現況 熊大医学部附属病院	(6724) 6071	(48.8) 44.5	(390) 778	(1) 2	(19) 54	(4) 16	(1) 5	(6) 26	(8) 4	(10) 8	(0) 1	(17) 23	(25) 59	(28) 45	(544) 608	(18) 13	0 200	0 286	(14) 11	(126) 121	(2457) 602
2		現況 熊本市民病院	(2194) 2967	(20.9) 28.2	(176) 376	(0) 0	(3) 2	(6) 21	(0) 0	(2) 14	(7) 24	(0) 16	(3) 7	(0) 0	(1) 0	(66) 134	(368) 342	(0) 4	(122) 261	(170) 259	(8) 11	(166) 215	(87) 89
3		現況 熊本赤十字病院	(2363) 2460	(16.3) 16.8	(208) 397	(3) 0	(4) 7	(9) 20	(7) 11	(10) 26	(22) 33	(4) 7	(14) 10	(2) 7	(3) 5	(4) 31	(375) 346	(54) 45	(121) 208	(139) 204	(16) 23	(30) 176	(48) 202
4		現況 熊本医療センター	(2579) 3674	(19.6) 27.8	(109) 105	(0) 0	(0) 1	(4) 17	(0) 4	(4) 4	(12) 38	(2) 11	(2) 7	(12) 7	(0) 2	(0) 13	(288) 257	(59) 26	(238) 981	(102) 937	(7) 8	(192) 195	(2508) 2779
5		現況 済生会熊本病院	(1695) 2209	(18.9) 16.7	(312) 517	(2) 3	(22) 27	(13) 22	(17) 30	(25) 30	(22) 42	(2) 9	(7) 4	(2) 3	(1) 3	(6) 20	(256) 185	(0) 0	(81) 88	(224) 227	(30) 30	(186) 106	(42) 184
6		現況 荒尾市民病院	(677) 284	(19.4) 8.4	(46) 94	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(7) 9	(19) 0	(7) 7	(2) 8	(0) 1	(1) 0	(0) 2	(0) 6	(132) 17	(0) 0	(59) 58	(65) 66	(24) 8	(111) 119	(971) 105
7		現況 熊本労災病院	(1470) 1479	(16.5) 16.5	(68) 155	(0) 0	(5) 3	(1) 4	(5) 4	(4) 9	(2) 12	(7) 3	(1) 5	(0) 0	(0) 5	(7) 3	(83) 102	(0) 0	(53) 79	(74) 109	(10) 7	(135) 130	(31) 68
8		現人吉総合病院	(771) 832	(17.1) 18.7	(43) 136	(0) 0	(3) 6	(7) 7	(1) 2	(3) 12	(5) 5	(5) 15	(3) 3	(3) 5	(1) 1	(3) 17	(126) 146	(0) 0	(74) 49	(102) 75	(5) 9	(58) 32	(64) 801
9		新規 八代総合病院	1168	23.0	78	0	0	12	6	2	18	4	0	0	0	6	89	0	134	185	11	16	41

資料3

熊本県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 熊本県の各二次医療圏の状況

(1) 熊本医療圏と隣接する医療圏の状況

- ・本県の人口、医療資源は熊本市を圏域とする熊本医療圏に集中
病院数90で県全体の41%を占める。
- ・熊本医療圏に隣接する宇城、鹿本、阿蘇、上益城の5医療圏は、熊本医療圏にある医療機関での受療割合が高く、当該5医療圏には、現在、がん診療連携拠点病院の指定要件を満たす医療機関が立地していない。
- ・熊本医療圏に立地する医療機関が隣接する各医療圏の拠点性を担っていることを踏まえて、担当の医療圏を設定のうえ、がん診療連携拠点病院を指定し、それぞれの医療圏の均てん化を図ることが必要。

(2) その他の医療圏の状況

- ・八代医療圏において、拠点性を有し指定要件を満たす医療機関を推薦。
- ・芦北、天草の2医療圏は、受療状況からも同圏域内での受療割合が高いが、がん診療連携拠点病院の指定要件を満たす医療機関が無いことから、がん医療の均てん化を図るため県独自の基準によりがん診療連携拠点病院として指定。

-43-

2 担当医療圏

- ・熊本県の各二次医療圏の状況を踏まえた担当医療圏一覧

病院名	担当医療圏	病院名	担当医療圏
熊本医学部附属病院	全県	荒尾市民病院	有明
熊本市民病院	熊本、上益城	熊本労災病院	八代
熊本医療センター	熊本、鹿本	八代総合病院	八代、芦北・球磨の一部
熊本赤十字病院	熊本、菊池、阿蘇	人吉総合病院	球磨
済生会熊本病院	熊本、宇城		

【熊本労災病院と八代総合病院の機能的役割分担について】

八代総合病院は、同じ医療圏にある熊本労災病院と同様に5大がんに対する診療実績を有するとともに、“その他のがん”については、熊本労災病院と異なる分野において診療実績を有している。

このことから、2つの病院が各々の特長を生かした機能を発揮していくことにより、当該医療圏におけるがん診療の充実が図られるものと考え。

<DPC(急性期入院期間別包括評価)実績を用いた対比>

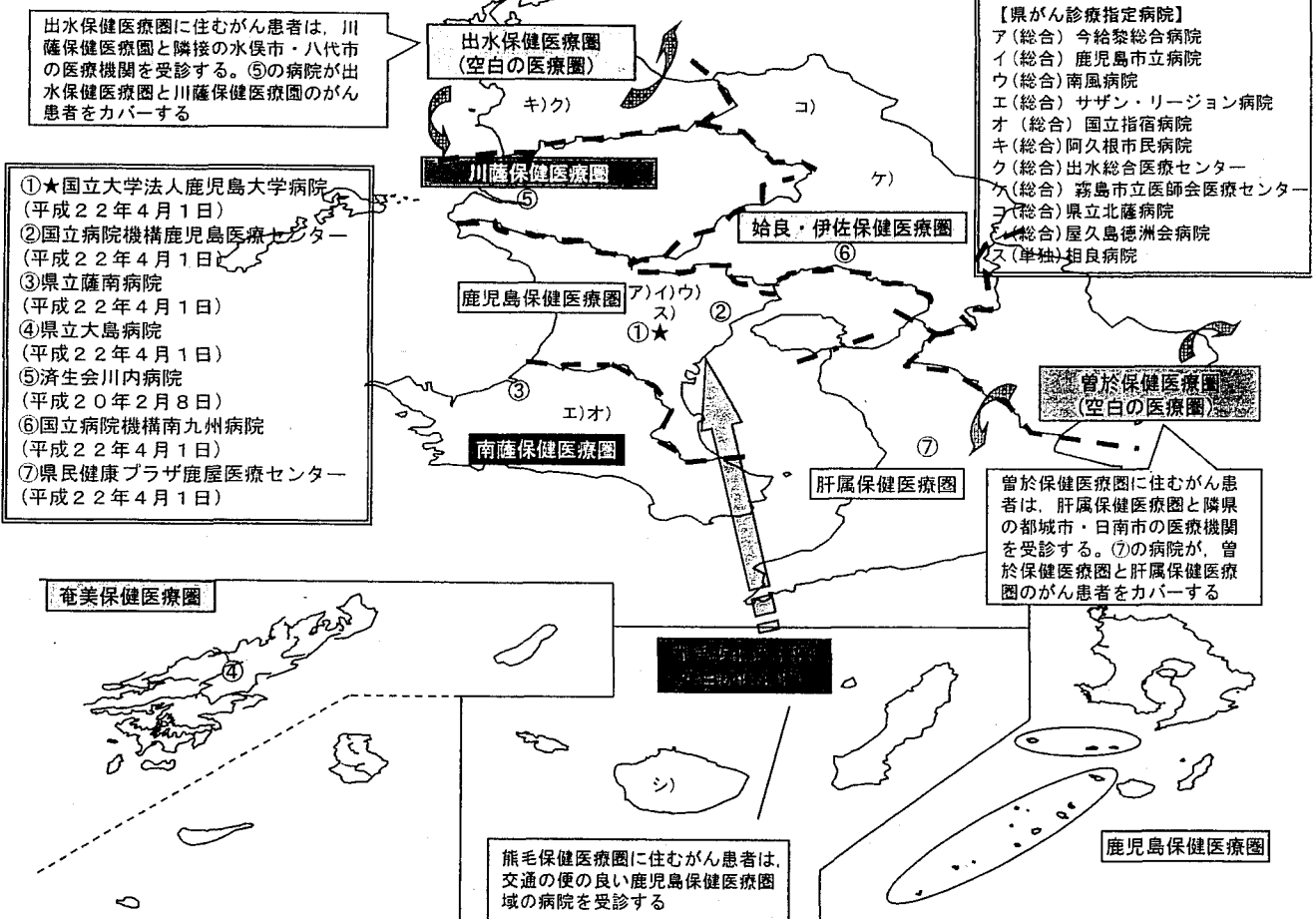
部位	熊本労災病院		八代総合病院		備考
	合計	手術計	合計	手術計	
全	469	186	300	106	○熊本労災病院の特徴 ・大腸については、八代総合病院を上回っている。 ・その他の半数は腎尿路系、女性生殖系であり、146件を占める。 ○八代総合病院の特徴 ・胃については、熊本労災病院を上回っている。 ・その他のうち、111件は血液系のがんである。(主に非ホジキンリンパ腫が82件)
肺	48	0	37	0	
胃	47	34	79	49	
大腸	50	17	11	0	
肝臓	49	30	28	24	
乳	32	15	11	11	
その他	243	90	134	22	

(補足) 上表はDPC 2009年7月～12月における実績より主要ながん診療に関するものを抜粋したものである。

46. 鹿児島県

鹿児島県平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

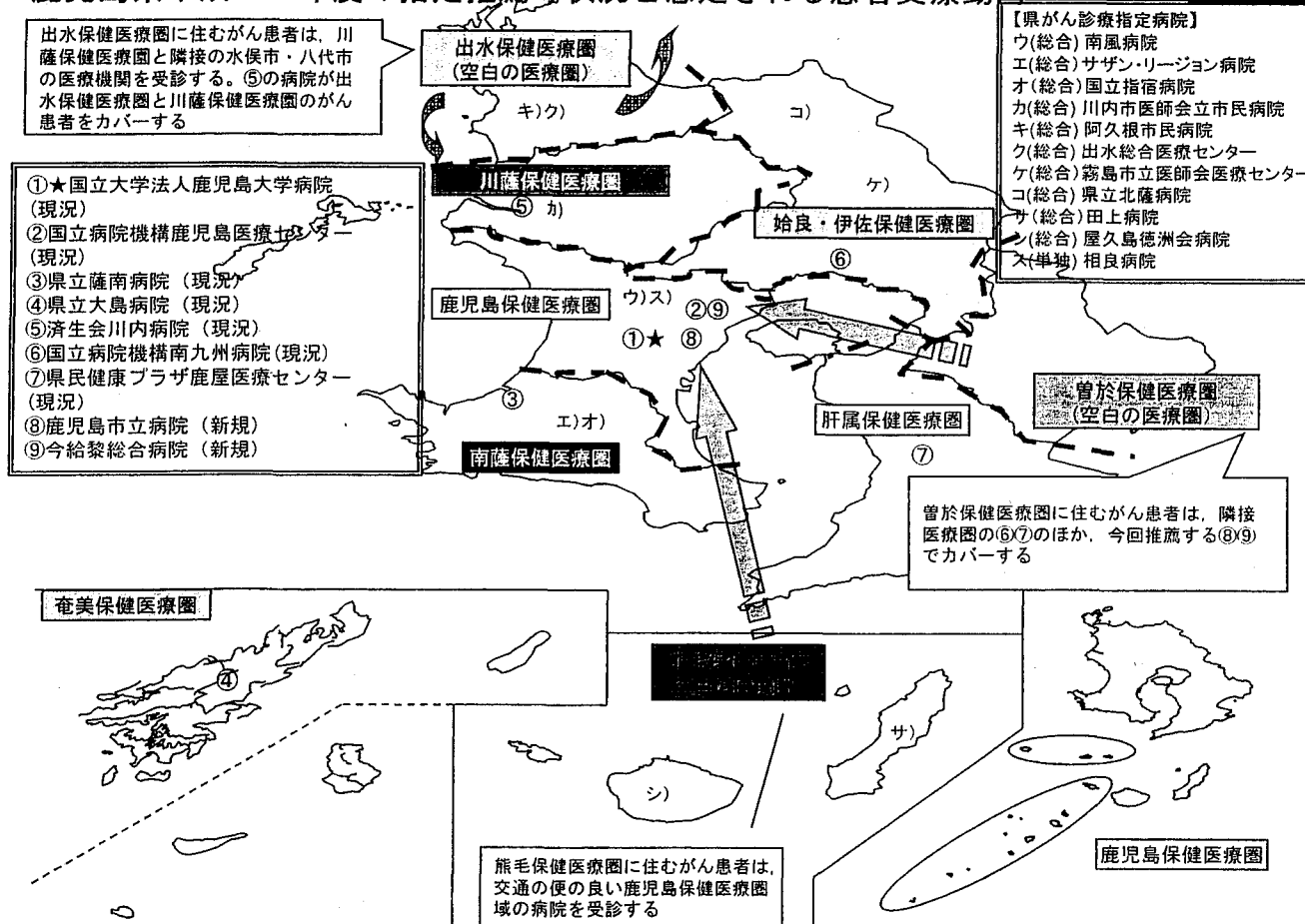
資料1



※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

都道府県 or 申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)の集計 ※1													放射線治療		がん治療法 ※1		緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (6~7月の集計)	相談支援センター 相談件数	病病連携・病診連携の 受入件数 (6~7月の集計)
		年間入院患者数 (1月~12月)	年間新入院患者数に占める がん患者者の割合 (%)	悪性腫瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)		薬物療法のべ 患者数				
					開胸手術	胸腔鏡手術	開腹手術	腹腔鏡下手術	ESD EMR ※2	開腹手術	腹腔鏡手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌手術	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数				
1 ★	更新 大学病院	(4193) 3026	(44.6) 34.1	(98) 488	(0) 38	(32) 35	(2) 5	(8) 6	(12) 2	(6) 10	(8) 1	(9) 1	(16) 7	(0) 18	(14) 25	(450) 414	(58) 72	(252) 544	(92) 215	(25) 23	(90) 175	(1793) 406	
2	更新 医療センター	(1937) 1515	(29.8) 23.1	(19) 86	(1) 1	(2) 0	(6) 9	(0) 0	(8) 0	(0) 12	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(164) 193	(3) 25	(171) 346	(78) 351	(11) 13	(378) 322	(337) 56	
3	更新 県立薩南病院	(651) 664	(30.4) 31.8	(16) 20	(0) 1	(0) 0	(3) 4	(0) 0	(3) 3	(7) 6	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(23) 23	(0) 0	(29) 41	(30) 26	(11) 83	(111) 66	(49) 53	
4	更新 県立大島病院	(623) 324	(10.8) 5.5	(22) 39	(0) 1	(1) 7	(2) 5	(0) 1	(0) 0	(7) 2	(3) 10	(0) 0	(0) 3	(0) 2	(7) 6	(61) 93	(0) 0	(67) 42	(31) 12	(5) 3	(35) 3	(55) 109	
5	更新 川内病院	(1067) 1041	(24.5) 22.2	(26) 106	(0) 0	(0) 0	(3) 4	(2) 4	(1) 3	(6) 9	(4) 6	(0) 0	(1) 0	(1) 1	(1) 1	(153) 171	(0) 0	(95) 160	(25) 108	(4) 6	(65) 43	(30) 63	
6	更新 南九州病院	(1625) 1691	(47.4) 49.5	(44) 78	(15) 2	(13) 60	(2) 3	(0) 0	(0) 0	(2) 6	(1) 3	(0) 0	(1) 2	(0) 1	(5) 0	(116) 101	(0) 0	(114) 111	(18) 21	(12) 10	(100) 138	(80) 80	
7	更新 鹿屋医療センター	(860) 830	(27.2) 26.2	(24) 42	(0) 0	(0) 2	(1) 5	(2) 3	(0) 0	(2) 6	(1) 4	(0) 4	(0) 0	(0) 0	(4) 0	(83) 133	(0) 0	(92) 112	(59) 148	(17) 16	(23) 28	(182) 172	
8	新規 鹿児島市立病院	1883	18.9	204	0	0	6	4	9	23	3	0	20	38	2	325	19	194	98	13	34	372	
9	新規 今給黎総合病院	1899	26.1	77	1	13	2	0	0	4	1	1	0	0	2	324	56	143	83	7	65	168	

鹿児島県平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



◎現状

- ・9医療圏域中6医療圏域に7施設（都道府県：1機関・地域：6機関）が指定されている。
- ・本県独自の「県がん診療指定病院」を13医療機関指定している。（H22.12.1現在）

◎目標

- ・平成22年度末までに一又は複数の二次保健医療圏域に地域がん診療連携拠点病院を整備。
- ・平成22年度末までに、地域がん診療連携拠点病院が未整備の二次保健医療圏域及び圏域の特性等により連携医療の強化が必要な圏域については、県がん診療指定病院を整備。

◎空白圏域の考え方

○出水保健医療圏

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がなく、県がん診療指定病院が2医療機関指定されている
- ・隣接の水俣市・八代市（熊本県）も生活圏となっており、その医療施設を利用するがん患者も多い。
- ・隣接の川薩医療圏の地域がん診療連携拠点病院（済生会川内病院）と県がん診療指定病院（川内市医師会立市民病院・阿久根市民病院・出水総合医療センター）との連携によりがん患者に対応する。

○曾於保健医療圏

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がなく、県がん診療指定病院も指定されていない。
- ・隣接の肝属保健医療圏域のがん診療連携拠点病院（鹿屋医療センター）での対応や、隣接の宮崎県（都市部・日南市の医療機関による対応の他、当医療圏域に県がん診療指定病院を整備し、これらの連携による対応を想定している。
- ・H22年度の宮崎県医療機関の辞退による減や、鹿児島市内への交通網の整備により鹿児島圏域への流入が多くなることが想定されるので、曾於圏域の地域がん診療連携拠点病院として今回鹿児島圏域の医療機関を新規推薦することとした。

○熊本保健医療圏

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がなく、県がん診療指定病院（屋久島徳洲会病院・田上病院）が指定されている。
- ・現状では、この圏域のがん患者は交通網（航空機・船）の便利な鹿児島市内の医療機関への受診者が多いことから、熊本圏域の地域がん診療連携拠点病院として、今回鹿児島圏域の医療機関を新規推薦することとした。

医療機関別各医療圏域毎の入院患者受け入れ状況

(平成21年度)

医療機関 入院患者住所	鹿児島医療センター(鹿児島)			県立薩南病院(南薩)			済生会川内病院(川薩)			南九州病院(始良・伊佐)			県民健康プラザ鹿屋医療センター(肝属)			県立大島病院(奄美)			鹿児島市立病院(新規)			今給黎総合病院(新規)			圏域計(Y)	
	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比	実入院患者数	院内構成比	圏域構成比		
	A	a(A/X)	(A/Y)	B	b(B/X)	(B/Y)	C	c(C/X)	(C/Y)	D	d(D/X)	(D/Y)	E	e(E/X)	(E/Y)	F	f(F/X)	(F/Y)	G	g(G/X)	(G/Y)	H	h(H/Y)	(H/Y)		
鹿児島	642	57.7%	30.6%				61	10.5%	2.9%	31	5.1%	1.5%													2095	
南薩	62	5.6%	12.1%	285	100%	56%	7	1.2%	1.4%	2	0.33%	0.4%														512
川薩	55	4.9%	8.4%				470	81.0%	71.6%	29	4.8%	4.4%														656
出水	24	2.2%	24.7%				36	6.2%	37.1%	6	1.0%	6.2%														97
始良・伊佐	218	19.6%	24.2%				5	0.9%	0.6%	462	76.7%	51.3%														900
曾於	13	1.2%	8.6%							37	6.1%	24.3%	65	10.0%	42.8%											152
肝属	49	4.4%	6.2%							31	5.1%	3.9%	583	90.0%	73.6%											792
熊本	28	2.5%	19.2%							3	0.5%	2.1%														146
奄美	21	1.9%	3.8%				1	0.17%		1	0.17%	0.2%				479	100%	86%								557
計(X)	1112	100%	-	285	100%	-	580	100%	-	602	100%	-	648	100%	-	479	100%	-	1254	100%	-	947	100%	-	5907	

鹿児島医療圏の医療機関に、他の医療圏からの入院がん患者数が多い背景には、次のような要因が考えられる。

- ① 本県人口の約40%がこの圏域に集中している。
- ② 高度の医療機能を有する医療機関がこの圏域に集中している。
- ③ 本県は、高齢化率がH21.10月現在26.3%と非常に高くなっており、特に地方部では40%を超えているところも多い。がんは加齢もその発症リスクのひとつである。がん患者は特に地方部で増加傾向にあるが、現在の地域がん診療連携拠点病院は病床数や地域の総合医療を担う立場等からがん患者の受入数を増やすことは困難な状況である。
- ④ 高速道路網・航空機便・船便といった交通機関の整備により、県内各地から鹿児島市内へのアクセスの利便性が高まっている。



- 基本的には、二次医療圏内に整備することを原則としつつ、未整備圏域については、人口・患者動向・地理的要因等を参考に、他の医療圏域で指定要件を充足する医療機関を選定する。
- その際には、医療資源の偏在を前提に検討する。なぜならば現状の偏在を補正するにはコストや時間を必要とし、今そこにいるがん患者に対応できないからである。

整備による効果

1. 県内交通ネットワークが集中している鹿児島市内の医療機関を地域がん診療連携拠点病院として整備することにより、鹿児島県のがん患者は鹿児島県内で診療を受けることができるようになる。
2. 既存の地域がん診療連携拠点病院では病床数等の都合で診療を受けることのできないがん患者の受け皿となる。
また、今回推薦する医療機関と既存の拠点病院との連携を強化することで、それぞれの病院の特徴を活かした診療を行うことができ、がん患者はより良い診療を受けることができるようになる。
3. 鹿児島県のようにもともと医療資源が乏しい地域にあっては、既存の高度医療機能を有する医療機関を地域がん診療連携拠点病院として整備することが、医療資源の有効活用に繋がり、結果的に本県のがん患者のQOLの向上に繋がる

44. 大分県

医政第 1654 号
平成22年10月29日

厚生労働省健康局長 殿

大分県福祉保健部長

「第6回がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」において付された
意見について（回答）

平成22年3月3日付け、健発0303第2号で依頼のあった標記のこと
について、別紙により報告します。

記

大分市医師会立 アルメイダ病院に付された下記の意見について

1. 相談支援センターにおける相談件数の推移や活動内容の評価
2. 緩和ケア病棟の設置予定の前倒し

指定の通知書の一部抜粋

(1) 平成22年2月3日に開催された「第6回がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」における意見を踏まえ、大分市医師会立アルメイダ病院においては、がん診療連携拠点病院として新規に指定することとしたが、相談支援センターにおける相談件数についての実績の推移や活動内容を評価し、数値目標等を用い検証を行うとともに、緩和ケア病棟の設置予定を可能な限り早めることとし、その設置スケジュールの見直し結果について、平成22年10月31日までに書面にて厚生労働省あて報告すること。

(2) なお、「第7回がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」において、(1)について委員から説明を求められた際には、都道府県から報告がなされるようお願いする。

【相談内容別件数】

平成21年度

項目 / 年・月	21/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22/1月	2月	3月	月平均
医療者との関係											0.0
医療費・生活費・社会保障制度	1	3	2	2	7	3	9	6	7	2	4.2
がんの治療・検査		3		1	1		1	3		3	1.2
告知											0.0
在宅医療・福祉	4	4	9	8		5	4	9	3	9	5.5
受診方法・入院	2		1					1		2	0.6
症状・副作用・後遺症			2	1	3	2	3		3	4	1.8
転院調整		2	6	4	2	6	2	2	4	2	3.0
人間関係(本人・家族・友人・職場など)					3	1					0.4
不安・精神的苦痛									2	1	0.3
ホスピス・緩和ケア	1		1	1	1	1		1	1	2	0.9
その他		2		2			1	1		1	0.7
計	8	14	21	19	17	18	20	23	20	26	18.6

平成22年度

項目 / 年・月	22/4月	5月	6月	7月	8月	月平均
医療者との関係	1			1	1	0.6
医療費・生活費・社会保障制度	4	3	3	5	3	3.6
がんの治療・検査	4	4	9	5	6	5.6
告知				2		0.4
在宅医療・福祉	3	5	5			2.6
受診方法・入院	1	2		1	2	1.2
症状・副作用・後遺症	1	1	4	4		2.0
転院調整		1		3	8	2.4
人間関係(本人・家族・友人・職場など)	1	1				0.4
不安・精神的苦痛	1	11	11	18	8	9.8
ホスピス・緩和ケア	1			1	2	0.8
その他	1	2	4		3	2.0
計	18	30	36	40	33	31.4

2) 活動内容

下記 ①～⑤の項目について検討及び対策に取り組みました。(表1)

項目	昨年申請時	対策(22年4月以降)
① 報について		
院内掲示場所等の見直し	受付ロビーに掲示 A4サイズポスター	受付ロビー、病棟掲示板、医局に掲示 B4サイズのポスターに変更
リーフレットの種類と設置場所	1種類 受付に設置	3種類に増 受付、病棟に設置
ホームページの見直し	医療福祉相談室と同じ場所に掲載する	地域がん診療連携病院の指定を受けた旨や、がん相談支援室を設置している旨を掲載し、また、がん相談支援室を検索しやすい工夫をする
院内職員へ周知の徹底	院内職員に、がん相談支援室の設置と部屋の場所が記載された文書を配布する。	相談員が積極的に病棟カンファレンスに参加し、がん相談支援室の業務・部屋の場所等を広報する 院内広報誌「なごみだより」で、がん相談支援室を記事にし、また、院内連絡会議や医局会などで紹介し周知を図る

1. 相談支援センターにおける相談件数の増加に対する取組について

アルメイダ病院の「がん相談支援室」は、相談支援員の研修を修了した看護師・ソーシャルワーカー・臨床心理士が、がん患者や家族の方からの、がんに対する悩みや疑問を伺い、医師・薬剤師など病院スタッフと連携をとりながら問題解決のための相談支援に取り組んでいます。

○現在のがん相談支援室構成員 4名

ソーシャルワーカー 2名 看護師 1名 臨床心理士 1名

上記4名のうち国立がんセンターの「相談支援センターの相談員の基礎研修会」修了者
 ソーシャルワーカー1名 (1)(2)(3)を修了 (ソーシャルワーカー1名 未受講)
 看護師1名 (1)(2)(3)を修了
 臨床心理士 (1)(2)を修了

1) 目標件数の設定と取り組み状況

申請時相談件数は下記の表のとおり、2ヶ月(21年6月・7月の実績)で22件(1ヶ月平均11件)であり、同時期の大半県内のがん診療連携拠点病院の実績は、42件～78件(1ヶ月平均21件～39件)となっています。

そこで、アルメイダ病院の過去8ヶ月の実績平均(21件)と、他院の件数を考慮し、本年度の相談件数の数値目標を、1ヶ月平均25件(申請時実績より平均14件の増加、年間300件)と致しました。

平成22年4月に活動内容の見直し及び検討をおこない、対策を実施し(表1)、平成22年度の実績は8月末で、1ヶ月平均31件となっています。

今後も地域がん診療連携拠点病院として、相談される方が安心して最適な治療やサービスが受けられるように、院内の連携(医師・看護師・栄養サポートチーム・緩和ケアチームなど)と、院外の連携(地域の医療機関、福祉・介護・行政機関など)を図りながら、相談支援に努めていく体制となっています。

以下、相談件数、方法別、内容別の数値と平成22年4月以降の活動内容

【相談件数】

申請時件数

年/月	21年6月	7月	月平均
相談件数	8	14	11.0

申請後件数

年/月	21年8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	月平均
相談件数	21	19	17	18	20	23	20	26	20.5

平成22年4月以降

年/月	22年4月	5月	6月	7月	8月	月平均
相談件数	18	30	36	40	33	31.4

【相談方法別】

平成21年度

	21/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22/1月	2月	3月	月平均
面接相談	7	7	13	11	10	13	11	14	12	18	11.6
電話相談	1	7	8	8	7	5	9	9	8	8	7.0
計	8	14	21	19	17	18	20	23	20	26	18.6

平成22年度

	22/4月	5月	6月	7月	8月	月平均
面接相談	14	25	34	37	29	27.8
電話相談	4	5	2	3	4	3.6
計	18	30	36	40	33	31.4

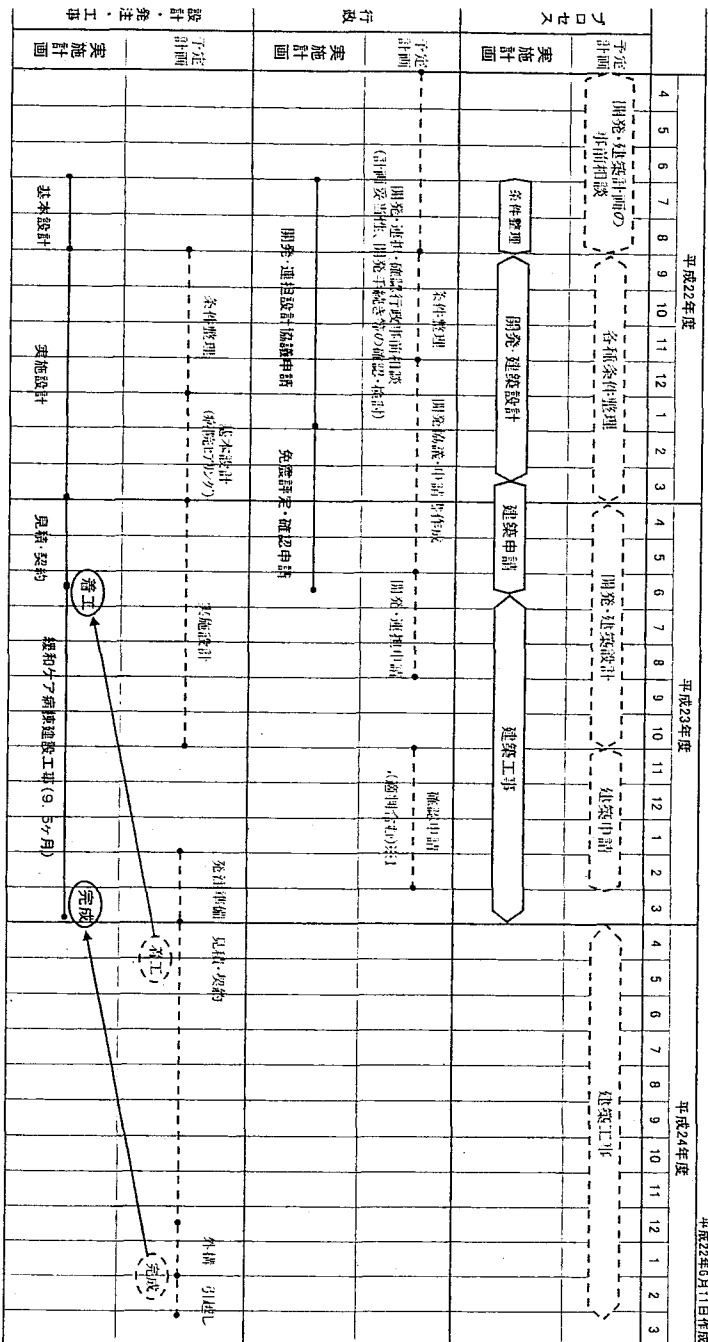
項目	昨年申請時	対策(22年4月以降)
②相談支援室構成員の数について (うち相談支援員の数)	【構成員】2名 (ソーシャルワーカー・看護師) 【相談支援員研修修了者】2名 (ソーシャルワーカー・看護師)	【構成員】4名 (ソーシャルワーカー2名・看護師1名 臨床心理士1名) 【相談支援員研修修了者】3名 (ソーシャルワーカー1名・看護師1名 臨床心理士1名) 臨床心理士を増員し、相談員基礎研修会(1)を4月に、(2)を6月に修了 臨床心理士を採用し、心理面の相談にも対応できる体制の整備を図る (4月に採用し、6月研修修了)
③知識の習得について	国立がんセンターの「相談支援センター相談員の基礎研修会修了者」 ソーシャルワーカー:(1)(2)(3)まで修了 看護師:(1)(2)を修了	(3)までの修了者に看護師を検討し、7月31日、8月1日の研修を修了 その他の研修会へ積極的に参加し、更に知識の習得を図る (国立がんセンター主催・県内外のがん相談に関連する研修会、がん看護研修会等)
④がん患者の会について	2ヶ月ごとに開催し、参加を募る	毎月開催 患者会にて、がん相談支援室の広報をおこない、相談しやすい環境づくりをおこなう 会終了後、相談を受ける時間を設ける
⑤検討会について	必要に応じて開催する	定期的に開催し(毎月末水曜日)、相談件数や内容の報告、反省等をおこなう

2. 緩和ケア病棟の設置予定を可能な限り早める件について

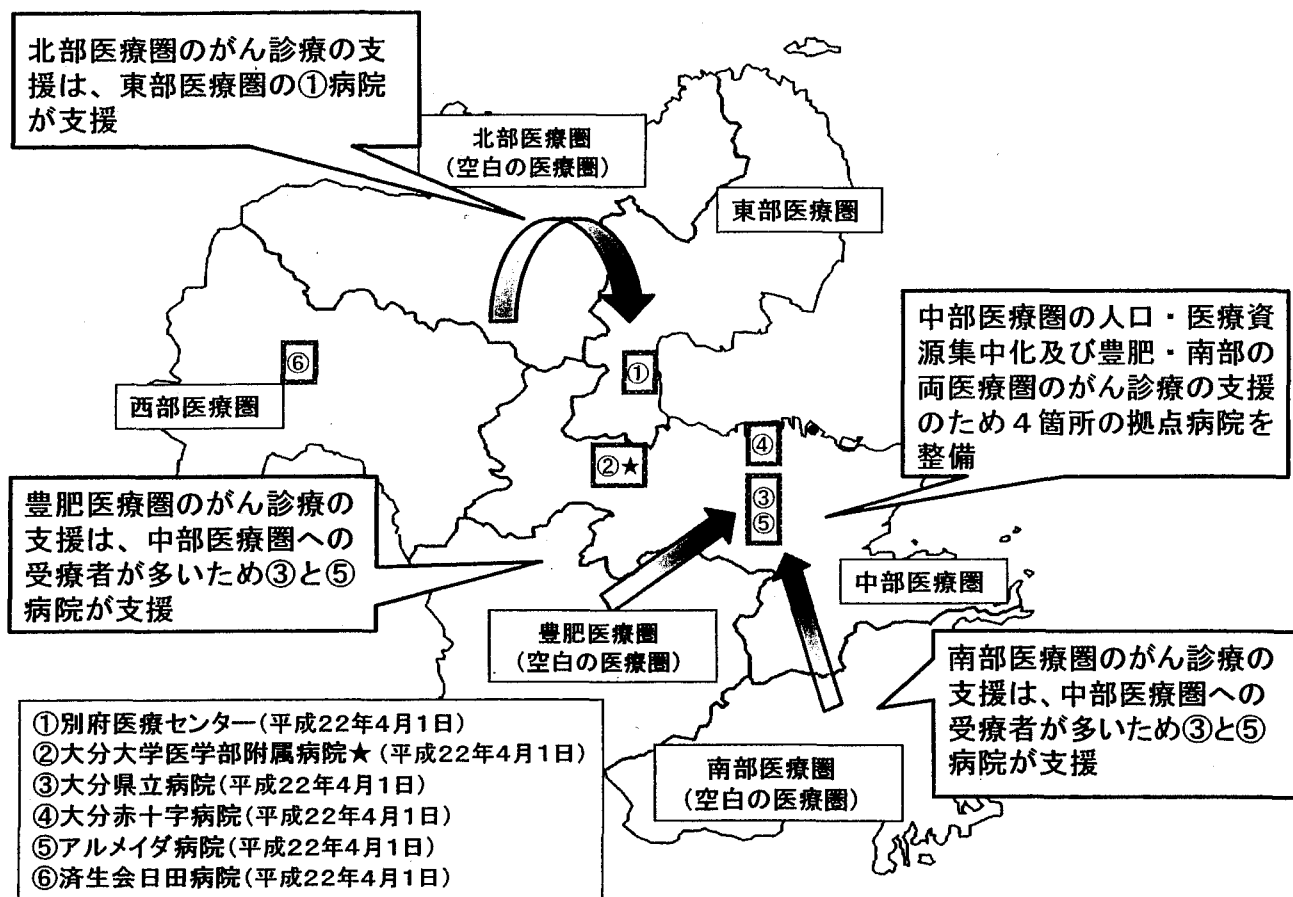
緩和ケア病棟工事については、建設資金の財源の一部に国の地域医療再生基金事業を活用していることから、県としても基金の前倒しの検討を行った結果、別紙「工事工程変更表」のとおり、平成25年1月末完成予定のところ、24年3月(23年度内)完成に早める計画に変更し、現在、計画のとおり進捗しています。

申請時完成予定 → 計画変更後完成予定時期
平成25年1月末 → 平成24年3月末(23年度内完成) 10カ月短縮

□大分市医師会立アルメイダ病院緩和ケア病棟増築工事 工程変更表



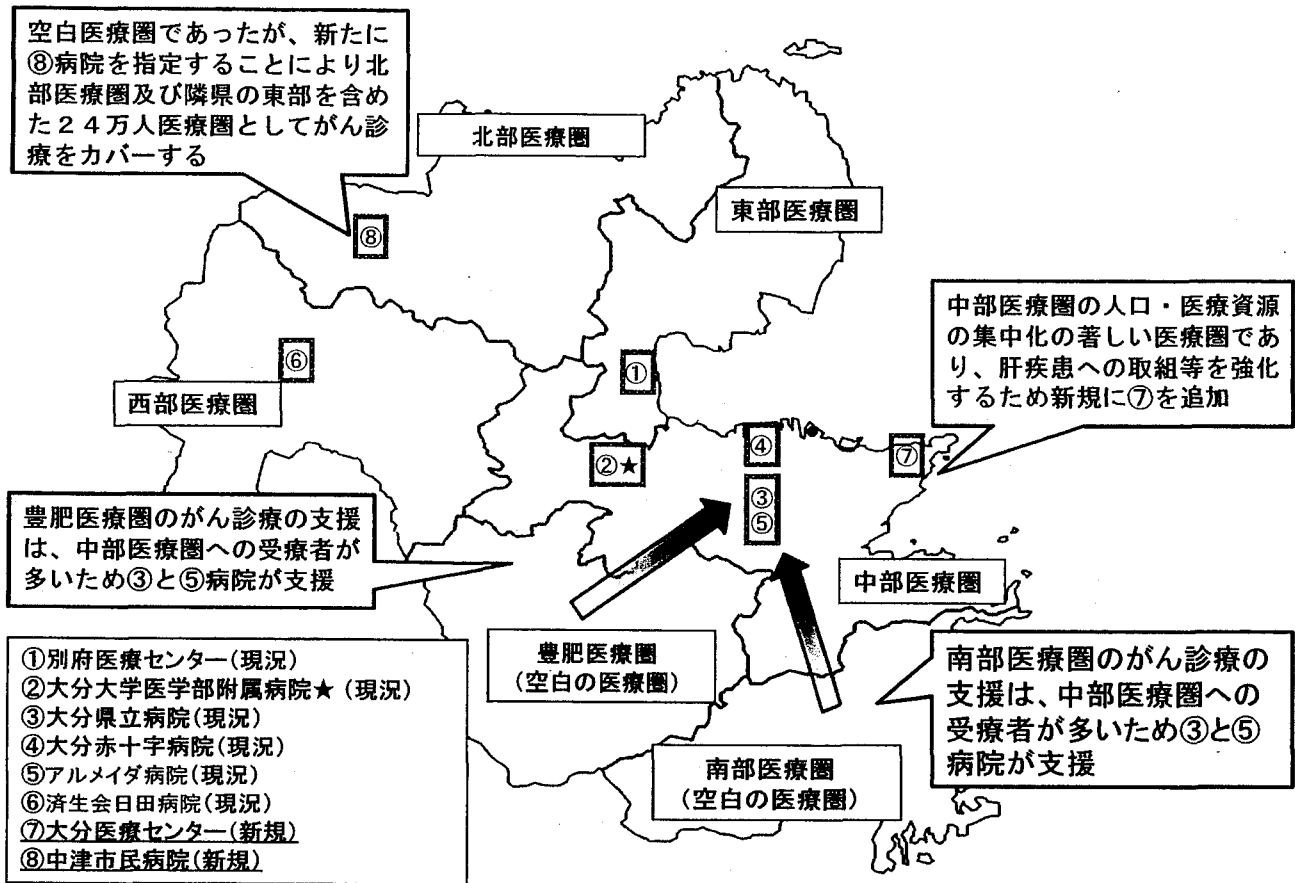
大分県 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物療法 ※1		緩和ケ ア ア チーム に対する 新規診療 依頼数 (6~7 月の集計)	相談支 援セン ター 相談 件数	地域 連携	
			年間 新入院 患者数 (1月 ~12 月)	年間 新入院 患者数 に占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)	薬物療法のべ 患者数						
						開 胸 手 術	胸 鏡 手 術	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	ESD ± EMR ※2	開 腹 手 術	腹 腔 鏡 下 手 術	内 視 鏡 手 術	開 腹 手 術	ラジ オ 波 焼 灼 法		乳 癌 手 術	体 外 照 射	小 線 源 治 療				入 院 患 者 数
1	現況	別府医療センター	1600 1607	(20.8) 20.7	(80) 236	(0) 2	(2) 14	(4) 4	(2) 5	(2) 4	(16) 7	(1) 9	(1) 17	(2) 9	(5) 3	(11) 13	(215) 99	(0) 0	(74) 376	(42) 90	(15) 5	(42) 98	(125) 134
2	★ 現況	大学附属病院	2434 2564	(24.0) 25.1	(185) 489	(3) 3	(14) 5	(4) 1	(7) 0	(7) 2	(1) 1	(16) 7	(0) 5	(2) 2	(1) 5	(8) 18	(353) 308	(26) 4	(208) 388	(244) 432	(35) 20	(50) 62	(136) 244
3	現況	大分県立病院	3520 3408	(31.9) 31.1	(123) 279	(3) 3	(5) 17	(4) 13	(2) 9	(4) 11	(7) 12	(6) 12	(0) 0	(2) 2	(0) 3	(16) 35	(418) 376	(14) 2	(159) 229	(385) 533	(17) 3	(62) 76	(143) 143
4	現況	赤十字病院	1780 2064	(24.4) 28.3	(89) 154	(6) 13	(0) 0	(7) 15	(2) 1	(6) 17	(10) 15	(3) 6	(6) 2	(10) 11	(2) 4	(0) 11	(155) 225	(0) 0	(70) 150	(215) 485	(16) 15	(50) 38	(106) 112
5	現況	アルメイダ病院	987 1171	(15.0) 15.8	(73) 123	(4) 16	(2) 2	(10) 12	(1) 1	(14) 16	(11) 20	(5) 13	(1) 9	(3) 2	(0) 0	(0) 1	(107) 110	(0) 0	(63) 89	(32) 51	(4) 12	(22) 76	(106) 88
6	現況	済生会病院	597 550	(18.8) 18.6	(15) 55	(3) 3	(0) 3	(2) 5	(0) 0	(0) 3	(5) 5	(0) 4	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(4) 4	(113) 102	(0) 0	(46) 90	(109) 243	(13) 6	(78) 124	(79) 77
7	新規	大分医療センター	1237	26.6	79	4	8	16	5	15	6	1	4	5	14	9	83	0	266	351	12	56	119
8	新規	中津市民病院	1591	31.8	173	15	7	10	1	3	12	4	1	2	14	12	112	0	161	227	7	82	269

大分県 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



大分県の現状と課題

6医療圏中3医療圏が空白医療圏 (豊肥・南部・北部)

全国水準より高い死亡率 (肝臓がん・ATL)

本県で未実施の項目 (地域がん登録・地域連携クリティカルパス)

中部医療圏の人口・医療資源の集中化……………(人口 47.7% 医療機関数 46.9% 患者受療数 45.2%)

対応策

「大分県がん対策推進アクションプラン」を策定
～ がん医療の充実と均てん化を目指して～

1. 喫煙対策
2. 生活習慣の改善
4. がん検診の受診率及び精度の向上

がん診療連携拠点病院が推進

「大分県がん対策推進協議会」において、「推進アクションプランの目標達成及び空白医療圏の解消のために、大分医療センター、中津市民病院を拠点病院として整備が必要」と結論

3. ウイルス対策 (肝臓がん治療)
5. がん医療の充実と医療連携の推進 (空白医療圏の解消、地域連携クリティカルパスの来年度本格実施等)
6. 相談支援体制の整備と情報提供 (相談支援センターの整備、相談支援員の研修)
7. 院内がん登録の精度向上と地域がん登録の導入 (実務担当者の研修、地域がん登録の来年度本格実施等)

大分医療センター(中部医療圏)

- ・5大がんの優れた診療実績
- ・「ウイルス性肝炎対策～肝臓がん」の優れた治療体制
肝臓疾患の治療データが豊富
* 肝臓専門医3名常勤
- ・前立腺がんの手術実績も県内トップクラスの成績
「腹腔鏡下前立腺全摘手術」施設認定(九州9施設)
* 21年手術実績 26件
- ・セミナー開催による医療・介護・保健とネットワーク構築

* 肝臓がんによる死亡が多い本県にとって、医療センターが拠点病院に指定されることにより、他の医療機関との連携強化が図られ死亡率の減少が可能

中津市民病院(北部医療圏)

- ・隣接県の自治体と県境を越えて24万人医療圏を形成
* 中核病院として質の高い医療を提供
- ・入院がん患者割合 31.8% 他県のがん患者 32.7%
- ・5大がんの優れた診療実績
* 肺がんは県内トップクラス
- ・県から地域周産期母子医療センターに指定
* がん以外の分野でも地域医療に貢献
- ・北部医療圏、福岡県の医療機関と連携が強い

* 中津市民病院は高いレベルでがん医療を提供しており、拠点病院の指定は本県の空白医療圏を解消するだけでなく、県境を越えたがん医療の均てん化に貢献

2病院が指定されることによる共通の効果

- (1) 来年度本格実施の「地域がん登録」「地域連携クリティカルパス」の円滑実施
 - * 拠点病院が中心となり、病病連携・病診連携のネットワークを構築し円滑な実施を推進
- (2) がんアクションプランの数値目標達成の推進
 - * 拠点病院の整備により、以下の主な数値目標の達成を推進

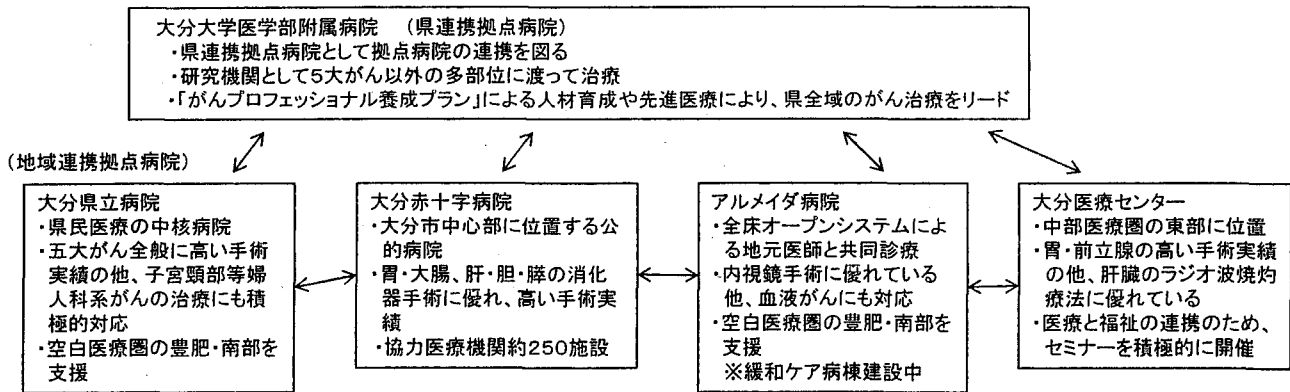
項目	現状	目標値	項目	現状	目標値
がん診療に関わる医療従事者への研修	医師 7回	10回	緩和ケア研修終了医師数	217人	300人
	多職種 60回	80回	緩和ケアチーム医療機関数	9病院	増加
緩和ケア指導研修終了医師数	14人	25人	肝臓がん死亡率(人口10万人対)	33.8	32.0

※中津市民病院のリニアック整備について
 これまでコバルトによる放射線治療を提供してきたが、平成24年新病院完成前にリニアック整備を早期実施し、平成23年3月中にリニアックによる治療を開始予定

(補足)

中部医療圏の各病院診療機能について

中部医療圏の各拠点病院が、それぞれの特色を発揮し連携することにより、県全体のがん医療の水準の向上・均てん化を目指す



前回の検討会において条件付き指定を受けたアルメイダ病院の報告について

付された意見

1. 相談支援センターにおける相談件数の推移及び活動内容を評価し、数値目標を用い検証を行うこと。
2. 緩和ケア病棟の設置予定を可能な限り早めること。

1. 相談支援センターについて

(1) 数値目標の設定 ……月平均25件 (アルメイダ病院の実績及び他の連携拠点病院を参考に設定)

(2) 相談件数の推移

前回申請時件数(21年6月～7月)

年/月	21年6月	7月	月平均
相談件数	8	14	11.0

(21年8月～22年3月)

年/月	21年8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	月平均
相談件数	21	19	17	18	20	23	20	26	20.5

(22年4月～23年1月)

年/月	22年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月	月平均
相談件数	18	30	26	10	33	31	29	31	30	36	31.4

(3) 目標達成に向けた主な取組内容

- ・相談支援センターの体制強化 2名 → 4名 (内臨床心理士1名) 基礎研修修了者1名 → 2名
- ・相談内容の定期検討会の開催 ・病棟カンファレンスへの積極的参加 ・患者家族の会との交流強化 ・広報の強化

2. 緩和ケア病棟設置予定について

緩和ケア病棟設置工事の早期着工を検討した結果、当初平成25年1月末完成予定を24年3月(23年度内)完成に前倒しすることとし、現在計画通りに進捗。

整備内容

(規模) 1,854.73㎡ (事業費)623,004千円(内自己資金 402,572千円 地域医療再生基金等 220,432千円)
 (構造) 鉄筋コンクリート造3階建 21床
 (特色) ・全室個室 既存病室より1.3倍の広さ ・患者と家族が自宅に近い環境に配慮 屋上庭園やペット対応ベランダ